

SYLLABUS

講義要項

2021

介護福祉科



学校法人 川口学園

早稲田速記医療福祉専門学校

目 次

利用の手引き

介護福祉科	1年生	1
介護福祉科	2年生	33

介護福祉科 1年生

2021年度生 介護福祉科カリキュラム

科目区分	履修方法	科目内容	領域	教育内容	科目名	授業形態	1年次		2年次		合計		介護福祉士受験資格	
							単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数		
登録指定科目	基礎科目	人間と社会	人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	講義	2	30			2	30	○	
				人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	2	30			2	30	○	
				人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションⅡ	講義	2	30			2	30	○	
				社会の理解	社会の理解Ⅰ	講義	4	60			4	60	○	
					社会の理解Ⅱ	講義			2	30	2	30	○	
					日本文化論	講義	2	30			2	30	○	
				現代社会論	講義	2	30			2	30	○		
				介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ	講義	2	30			2	30	○
						介護の基本Ⅱ	講義	4	60			4	60	○
						介護の基本Ⅲ	講義			2	30	2	30	○
						介護の基本Ⅳ	講義			3	45	3	45	○
						介護の基本Ⅴ	講義			2	30	2	30	○
					コミュニケーション技術	コミュニケーション技術Ⅰ	講義	2	30			2	30	○
						コミュニケーション技術Ⅱ	講義	2	30			2	30	○
					生活支援技術	生活支援技術Ⅰ	演習	2	30			2	30	○
	生活支援技術Ⅱ	演習	2			30			2	30	○			
	生活支援技術Ⅲ	演習	4			60			4	60	○			
	生活支援技術Ⅳ	演習					4	60	4	60	○			
	生活支援技術Ⅴ	演習	2			30			2	30	○			
	生活支援技術Ⅵ	演習	2			30			2	30	○			
	生活支援技術Ⅶ	演習					4	60	4	60	○			
	介護過程	介護過程Ⅰ	演習		4	60			4	60	○			
		介護過程Ⅱ	演習				4	60	4	60	○			
		介護過程Ⅲ	演習				2	30	2	30	○			
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	演習		4	60			4	60	○			
		介護総合演習Ⅱ	演習				4	60	4	60	○			
	介護実習	介護実習Ⅰ	実習		3	90			3	90	○			
		介護実習Ⅱ	実習		5	150			5	150	○			
		介護実習Ⅲ	実習				6	180	6	180	○			
		介護実習Ⅳ	実習				1	30	1	30	○			
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ		講義	4	60			4	60	○		
			こころとからだのしくみⅡ		講義			4	60	4	60	○		
		障害の理解	障害の理解		講義	4	60			4	60	○		
		発達と老化の理解	発達と老化の理解Ⅰ		講義			2	30	2	30	○		
			発達と老化の理解Ⅱ	講義			2	30	2	30	○			
	認知症の理解	認知症の理解	講義			4	60	4	60	○				
	医療的ケア	医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	5	75			5	75	○			
			医療的ケアⅡ	演習			1	15	1	15	○			
	科目連	科目連	介護福祉ゼミⅠ	演習	2	30			2	30				
			介護福祉ゼミⅡ	演習			2	30	2	30				
			介護福祉事務	講義			2	30	2	30				
	合計							67	1,125	51	870	118	1,995	

※介護福祉科の卒業には、修業年限以上在学し、介護福祉士資格取得に必要な全教科の単位を修得し、かつ1700時間相当の単位数の修得が必要

科目名	人間の尊厳と自立			担当教員	熊谷 崇		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として介護施設・事業所に5年以上勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護福祉で大切な視点を伝える。						
□位置付け 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。									
□授業の目的 介護福祉士は専門職として、高度な職業倫理が求められており、要介護者の「個人の尊厳を保持し、その有する能力及び適性に応じ自立した日常生活を営むことができるよう」に支援しなければならないとされる。ここでいう「個人の尊厳」や、「自立した日常生活」とは何か、本講義では、介護福祉士の根幹となるべき、尊厳や自立の意義について検討を加える。									
□授業の到達目標 1 近代市民社会における個人の尊厳と自立の大切さを理解する。 2 個人の尊厳保持は、介護福祉における人間理解の第一原理であることを理解する。 3 日本国憲法やその他の法における基本的な人権保障の理念と日常生活との関連について理解する。 4 介護福祉における利用者の「尊厳」や「自立」の意義を理解する。 5 多様な人間観、自立観を受けとめ、他者の価値観を理解し、共感できるようになる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				40	授業の出席状況に重点を置きつつ、随時試験及び定期試験（レポート）等の総合にて評価する。 □学生へのメッセージ 基礎からゆっくりと知識を積み重ねていきます。主体性を持って授業に参加してください。毎回プリントを配付しますので、ファイルを用意してください。				
試験等	提出物			—					
	レポート			—					
	随時試験			30					
	定期試験			20					
	平常の授業状況(授業態度)			10					
その他（ ）			—						
合計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解(中央法規) ミネルヴァ社会福祉六法2021 (ミネルヴァ書房)					随時紹介します。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	人間の尊厳と自立の意義①	人間を理解するということ
2	人間の尊厳と自立の意義②	人間の尊厳の意義
3	人間の尊厳と自立の意義③	自立の意義
4	尊厳と自立をめぐる歴史としくみ①	人権、そして自立の思想
5	尊厳と自立をめぐる歴史としくみ②	人権、そして自立をめぐる歴史的経緯
6	尊厳と自立をめぐる歴史としくみ③	人権、そして尊厳と自立に関する諸規定
7	人間の尊厳・自立と生活	生活を通して人間の尊厳と自立を考える
8	介護における尊厳保持と自立支援の理論①	介護における権利擁護と人権尊重①
9	介護における尊厳保持と自立支援の理論②	介護における権利擁護と人権尊重②
10	介護における尊厳保持と自立支援の理論③	介護における権利擁護と人権尊重③
11	介護における尊厳保持と自立支援の理論④	「尊厳を支えるケア」とは何か①
12	介護における尊厳保持と自立支援の理論⑤	「尊厳を支えるケア」とは何か②
13	介護における尊厳保持と自立支援の実践①	介護における尊厳保持の実践
14	介護における尊厳保持と自立支援の実践②	介護における自立支援の実践
15	定期試験	レポート

科目名	人間関係とコミュニケーションⅠ			担当教員	松田 朗		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、PSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
<input type="checkbox"/> 位置付け 対人援助に必要な人間の関係性を理解し関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 ①人との関わりを通して、人はどのように成長するのかを理解する。 ②コミュニケーションの構造や特性について理解する。 ③支援者として重要なコミュニケーションの基礎を理解する。 ④組織において求められるコミュニケーションの要点を理解する。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 ①人間の成長に関する知識を生活支援でどのように活かしていけるか説明できる。 ②生活支援上効果的なコミュニケーションの手段の使い方について説明できる。 ③生活支援における受容、共感、傾聴の重要性を説明できる。 ④集団討議（目的の共有と自由な意見交換）ができる。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法			評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント ・毎回の授業で振り返りレポートを作成していただきます。このレポートには出席状況点が含まれます。 ・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。 <input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・思考も行動も柔軟に。感性を磨き、遊び心を大切にしましょう。 ・学びを一緒に楽しみましょう。 ・メールアドレス matsuda.akira@wasedasokki.jp				
出席状況									
試験等	提出物								
	レポート			50					
	随時試験								
	定期試験			50					
	平常の授業状況（ ）								
その他（ ）									
合計				100%					
<input type="checkbox"/> テキスト ・最新介護福祉士養成講座1 人間の理解（中央法規）					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ ・「わかりあえないことから」平田オリザ著 ・「聴く・伝える・共感する技術便利帳」大谷佳子著				

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	講師紹介/授業内容解説/評価方法解説/学びのキーワード
2	自分と他者の理解	自己理解、他者理解、自己開示などについて学びます。
3	発達心理学から見た人間関係	発達段階説、パーソナリティなどについて学びます。
4	社会心理学から見た人間関係	他者との関わり、集団との関わりなどについて学びます。
5	人間関係とストレス	ストレス対処行動などについて学びます。
6	まとめのテスト/振り返り	1回目から5回目の授業内容を整理します。
7	コミュニケーションの基本構造	対人関係におけるコミュニケーションを学びます。
8	コミュニケーションの手段	非言語の種類とメッセージについて学びます。
9	対人援助における基本的態度	受容、共感、傾聴について学びます。
10	援助的人間関係の形成	援助関係を形成する7つの原則について学びます。
11	バイステックの7原則	バイステックの7原則についてさらに考えます。
12	まとめのテスト/振り返り	7回目の授業～11回目の授業の内容を整理します。
13	組織とコミュニケーションの特徴	組織の条件とコミュニケーションの特徴を学びます。
14	まとめのテスト/振り返り	組織のコミュニケーションについて学びます。
15	期末試験	筆記試験

科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ			担当教員	藍原 義勝		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として医療法人が経営する在宅サービスに約20年間勤務。患者・利用者の相談援助に従事する傍ら、地域づくりに10年以上活動している。実例・経験をもとに講義を行う。						
□位置付け 介護実践のために必要な人間関係の理解や、対人援助理解、基礎的なコミュニケーション能力を養うと同時に「仕事の安全と品質」「危険管理」「チームマネジメント」に対する考え方とその取り組みについて学ぶ。									
□授業の目的 この授業では、「人間関係と心理」「対人関係や組織におけるコミュニケーション」の理解を行い、仕事のミスはなぜ起きるのか、どうすれば防げるのか、どうやって改善するのかなど、仕事の安全確保と質の管理についての基本的な考え方や手法を学び、2年生授業への前段階として位置づける。									
□授業の到達目標 ① 人間関係が及ぼす心理的な影響を理解し、自分と他者を理解するための知識を使うことができる。 ② 対人援助構築の基盤となる知識と技術を使うことができる ③ 介護事故の事例を踏まえ、仕事の管理に関する基本的な考え方とチームマネジメントの基礎的知識を理解する。 ④ ミスや事故の発生原因とそれをどう防ぐかについて安全管理、危険管理の基本的な考え方と手法を理解する。									
□成績評価の方法				評価項目	割合	□成績評価に関するコメント			
出席状況					20	・出席状況を評価項目に設定します。 ・また、定期試験は、予め提示したテーマについてその内容説明と自分の理解を記載する論述式とします。			
試験等	提出物				—	□学生へのメッセージ ・人とのコミュニケーションを通じて、「仕事の安全と質の管理」を学びましょう。それは、どんな仕事にも適応できるオールマイティなものです。			
	レポート				—				
	随時試験				—				
	定期試験				80				
	平常の授業状況 ()				—				
その他 ()				—					
合計					100%				
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解(中央法規)					・介護リスクマネジメント(事故防止編とトラブル編)				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	授業の目的と概要説明	言葉の意味と捉え方・必要性・キーワードを知る
2	人の特性と事故の発生原因	人の特性、事故の発生原因や仕事の安全質管理の前提が何かを知る
3	対人援助関係とコミュニケーション	対人援助関係における基本的態度とバイステックの7原則への理解
4	組織におけるコミュニケーション	組織において求められるコミュニケーションを学ぶ
4	介護実践におけるチームマネジメント	チームマネジメントの基礎的知識を知る
5	事故事例1	事故事例を知り、イメージ共有を図る
6	事故事例2	事故事例を知り、イメージ共有を図る
7	事故事例3	事故事例を知り、イメージ共有を図る
8	事故の未然防止と再発防止取組1	問題点発見と対策の重要性を知る(チームとして取組む)
9	事故の未然防止と再発防止取組2	問題点発見と対策の重要性を知る(チームとして取組む)
10	事故後の取組と定期試験について	事故後の対策活動を知る・定期試験について
11	事故報告書作成1	事故報告書作成体験をする(事例確認、問題分析)
12	復習	過去の復習
13	模擬試験	模擬試験の実施
14	事故報告書作成2	事故報告書作成体験をする(問題分析をもとに対策会議)
15	定期試験	論述式。論述式は事前にテーマを提示する

科目名	社会の理解 I			担当教員	熊谷 崇		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	通年	学期	前・後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として介護施設・事業所に5年以上勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護福祉で大切な視点を伝える。						
□位置付け 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。									
□授業の目的 個人が「自立した日常生活」を営むということを理解する。個人・家族・地域・社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。同時に我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。									
□授業の到達目標 1 社会の急速な高齢化、ライフスタイルの多様化といった現代社会の特徴を理解する。 2 自助・互助・共助・公助といった多元的かつ重層的な支援のあり方を学ぶ。 3 介護福祉に関する制度の大きな転換である社会福祉基礎構造改革、介護保険制度の設立といった背景を学び、基礎的知識を介護福祉実践に必要とされる観点から習得する。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				40	授業の出席状況に重点を置きつつ、定期試験等を総合して評価する。 □学生へのメッセージ 基礎からゆっくり知識を積み重ねていきます。主体性を持って授業に参加してください。プリントを毎回配付しますので、厚めのファイルを用意してください。				
試験等	提出物			—					
	レポート			—					
	随時試験			30					
	定期試験			20					
	平常の授業状況(授業態度)			10					
その他 ()			—						
合計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解 (中央法規) ミネルヴァ社会福祉六法2021 (ミネルヴァ書房)					□参考図書・資料・参考ホームページ 随時紹介します。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	
2	社会構造とライフスタイルの変化①	社会の高齢化とは何か①
3	社会構造とライフスタイルの変化②	社会の高齢化とは何か②
4	家族とは何か①	家族とは何か
5	家族とは何か②	家族の機能
6	家族とは何か③	家族の変遷
7	家族とは何か④	「家族介護」とは何か①
8	家族とは何か⑤	「家族介護」とは何か②
9	地域とは何か①	コミュニティとは何か
10	地域とは何か②	コミュニティの再構築にむけての取り組み
11	組織とは何か	社会における組織の概念
12	地域共生社会とは何か	地域共生社会の実現に向けた動向、地域包括ケアシステム
13	介護の社会化とは何か①	福祉多元主義とは何か
14	介護の社会化とは何か②	福祉多元主義とは何か
15	介護の社会化とは何か③	前半の総括

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	社会保険制度とは何か①	社会保障制度のしくみの基礎的理解①
17	社会保険制度とは何か②	社会保障制度のしくみの基礎的理解②
18	社会保険制度とは何か③	医療保険制度とは何か
19	社会保険制度とは何か④	年金保険制度とは何か
20	社会保険制度とは何か⑤	労働保険制度とは何か
21	社会福祉（福祉サービス）と何か①	措置制度とは何か
22	社会福祉（福祉サービス）と何か②	高齢者福祉制度の変遷
23	社会福祉（福祉サービス）と何か③	社会福祉基礎構造改革とは何か
24	介護保険制度とは何か①	介護保険制度の理念と目的
25	介護保険制度とは何か②	介護保険制度と措置制度
26	介護保険制度とは何か③	介護保険制度のしくみ①
27	介護保険制度とは何か④	介護保険制度のしくみ②
28	介護保険制度とは何か⑤	介護保険制度のしくみ③
29	介護保険制度とは何か⑥	地域包括ケアシステムの今後
30	定期試験	レポート

科目名	日本文化論			担当教員	内村 佳代子		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	航空会社営業部に8年間勤務後、接遇コンシェルジュとして3年間勤務。これらの実務経験をもとに職場における周りの方々への心遣いやマナーの大切さを伝える。						
□位置付け 介護を実施するにあたって必要な礼儀作法や社会人としてのマナーや接遇、日本の伝統文化について理解する。									
□授業の目的 ①介護現場に適した心遣い・言葉遣い・身だしなみ・立ち居振る舞いを習得する。 ②職場での良好な人間関係の築き方を学ぶ。 ③高齢者が過ごしてきた時代や社会の姿、風俗・風習を理解する。									
□授業の到達目標 ①社会人としてのマナー、接遇の基本を学ぶことで、相手を思う心を養う。 ②社会人としてのマナー、接遇の基本を学ぶことで、良好な人間関係を築く。 ③高齢者が過ごしてきた時代や社会の姿、風習・風俗を学ぶことで、相手を理解できるようにする。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				30	出席数と授業態度を重視します。 積極的に授業に参加してください。				
試験等	提出物			—	□学生へのメッセージ 「わかる」から「できる」まで、ロールプレイングやグループワークを通して体験的に学びます。 一緒に頑張りましょう。				
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			40					
	平常の授業状況(授業態度)			30					
その他()			—						
合計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ オリジナルレジュメ配付				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	接遇マナーとは	心を形に、形に心を添えるおもてなしの気持ち
2	介護福祉士に必要な資質	人間関係を築くコミュニケーションマナー
3	日本の伝統文化としきたり	季節の祭事
4	日本の地理	日本の地理と都道府県の特徴
5	信頼関係を築く言葉遣い	敬語の種類と使い方、好感を持たれる言葉遣い
6	電話応対	電話の受け方、掛け方
7	来客者の応対	受付、案内、お茶出し、見送り
8	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの特徴と形式
9	慶弔時への対応	冠婚葬祭のしきたり
10	ビジネス文書の基本	手紙の書き方、封筒の宛名書き
11	来客応対ロールプレイング	応対者と訪問者の言葉遣い・立ち居振る舞いの実践
12	傾聴の重要性、会話の留意点	上手な聴き方とわかりやすい伝え方
13	仕事の進め方、状況対応ロールプレイング	「わかる」から「できる」までの状況対応
14	総復習	日本文化論の総まとめ
15	定期試験	

科目名	現代社会論			担当教員		前川 佳夫		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<input type="checkbox"/> 位置付け 現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について理解する。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 現代日本社会は、とくに 1960 年代の高度経済成長期以降、大きな変化をとげてきている。この授業では、21 世紀の日本社会が抱える諸問題に焦点をあて、少子高齢化が進行するなかで、社会福祉、高齢者福祉、そして地域福祉等々がどのような課題に直面し、それにどう立ち向かおうとしているかを検討する。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 現代日本社会はこの 70 年間にどのように変化してきたかを理解する。 高度経済成長期を経て、日本の「家族」はどのように変化したか、変化の背景や現状を理解する。 地域社会が弱体化するなかでの、高齢者の社会的孤立をめぐる諸課題について理解する。 現代日本の社会保障制度、生活保障制度の特徴を理解する。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法			評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント				
出席状況				—	<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ 講義中の私語や居眠りなど、講義を聞いているひとの迷惑になるような行為はしないようにして、たのしい教室にしましょう。 聞き慣れない言葉も出てくるとは思いますが、わからない点などがあつたら遠慮なく質問してください。				
試験等	提出物			—					
	レポート			—					
	随時試験			10					
	定期試験			70					
	平常の授業状況(授業態度)			20					
その他 ()			—						
合計				100%					
<input type="checkbox"/> テキスト 特定のテキストは使用しません。					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ 日本介護福祉士養成施設協会編「人間の尊厳と自立/社会の理解」				

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	変化する現代の日本社会	この 70 年間に日本社会はどのように変わってきたか
2	農村での生活から都市の生活へ	高度経済成長期に激化する人口移動とその後
3	大家族から核家族へ、そして単身世帯へ	農村の大家族制から都市の小家族制への変化
4	都市での生活を支える雇用と消費	都市生活を支える雇用契約と消費者契約の特徴
5	社会保障制度の法体系	19 世紀後半に成立する社会保障制度とその展開
6	日本型生活保障システムの成立	国民皆保険、皆年金+企業福祉の成立と課題
7	介護保険制度導入の意義	人口の高齢化と介護保険制度の導入の意義
8	生活の場としての地域の変化	地域ごとの高齢化率のちがいと格差の拡大
9	家計の二極化の進行	富裕層と貧困層、二極化する傾向へ
10	一人暮らしの高齢者の生活	「頼れる人がいない」高齢者の急増
11	高齢者の社会的孤立がもたらす問題	買物難民、孤独死等の増加にどう対処するか
12	地域におけるつながりの再構築	地域における「新たな支え合い」の試み
13	「地域包括ケアシステム」の構築にむけて	「PDCA サイクル」とは
14	高齢者等の権利をまもる仕組み	成年後見制度と高齢者虐待防止法
15	今後の展望と定期試験	これからの社会保障制度のあり方を考える

科目名	介護の基本 I			担当教員	笠倉 賢一		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	鍼灸師、あん摩マッサージ指圧師の資格があり、現在は理学療法士として病院・クリニックで20年勤務。自身の経験をもとにリハビリテーション介護技術を伝える。						
□位置付け 介護福祉士として要介護者の自立支援及び社会生活能力の維持拡大への援助に関する実践能力を身につける。リハビリテーションの領域と役割を理解する。									
□授業の目的 リハビリテーションの理念を理解し、介護の目標・機能などとの関連を学ぶ。 1. リハビリテーションの理念と基本原則について学ぶ。 2. 障害の程度とその影響を理解する。 3. 目標設定とリハビリテーション計画について学ぶ。 4. 障害別リハビリテーションの実際について理解する。 介護福祉士として要介護者の自立支援及び社会生活能力の維持拡大への援助に関する実践能力を身につける									
□授業の到達目標 1. 全人間的復権を図る活動が本来のリハビリテーションであることを学ぶ。 2. リハビリテーションで用いる基本的用語を理解する。 3. 各疾患のリハビリテーションについて理解する。 4. リハビリテーション介護技術の基本となる考え方を理解する。									
□成績評価の方法		評価項目	割合	□成績評価に関するコメント					
出席状況			10	基本的には期末試験で評価するが、出席や授業態度も加味する。 □学生へのメッセージ 実演を交えて質疑応答を多く、双方向形式とする。 実際の画像や動画をパワーポイントを使用して説明します。					
試験等	提出物		—						
	レポート		—						
	随時試験		—						
	定期試験		80						
	平常の授業状況(授業態度)		10						
その他 ()			—						
合計			100%						
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座3 介護の基本 I (中央法規)				□参考図書・資料・参考ホームページ 随時資料配付					

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	リハビリテーションの理念	リハビリテーションとは
2	リハビリテーションの領域と役割	リハビリテーションに関わる専門職
3	リハビリテーションの領域と役割	リハビリテーションチーム
4	リハビリテーションに関する社会資源	社会資源について
5	リハビリテーションに関する社会資源	福祉サービスについて
6	リハビリテーションと福祉用具	福祉用具について
7	リハビリテーションと住居改造・福祉の町づくり	住居の改造について
8	リハビリテーション介護	リハビリテーション介護とは
9	リハビリテーション介護	リハビリテーション介護技術の基本
10	障害別リハビリテーションの実際	脳卒中
11	障害別リハビリテーションの実際	関節リウマチ・大腿骨頸部骨折
12	障害別リハビリテーションの実際	パーキンソン病他
13	地域リハビリテーション	地域リハビリテーションの目標と考え方
14	終末期リハビリテーション	リハビリテーション医療の考え方と課題
15	定期試験	

科目名	介護の基本Ⅱ			担当教員	中嶋 純也		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士及び介護支援専門員として介護施設・事業所に20年勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護福祉で大切な視点を伝える。						
□位置付け 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。									
□授業の目的 ①介護福祉とは何か、介護の成り立ちや介護概念の変遷、介護の基本理念から尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念の習得をする。 ②介護福祉士の役割と機能、介護実践における倫理をについて、基本的な専門職としての視点を養う。 ③協働する多職種の役割と機能の必要性について、基礎的な知識を習得する。									
□授業の到達目標 ①尊厳の保持と自立支援について意味を理解し、利用者の理解に活かすことができる。 ②介護福祉士の専門性を理解し、介護実践で利用者とのかかわりに活かすことができる。 ③介護現場等で関わる多職種の役割と機能を理解し、多職種との連携や協働の必要性を理解し実践することができる。									
□成績評価の方法		評価項目	割合	□成績評価に関するコメント					
出席状況			30	出席状況・提出物・定期試験・授業態度で評価していきます。時折提出物を個人・グループで提出してもらいます。 評価の詳細は、初回の授業にて説明します。 □学生へのメッセージ 専門的で分からないことが分からないということが出てくると 思います。自分だけが分からないのではなく、皆で考えて分 らうと考えることが大切です。皆で参加・協力できる授業形態に します。体調管理を徹底し授業出席を心がけてください。					
試験等	提出物		10						
	レポート		—						
	随時試験		—						
	定期試験		50						
	平常の授業状況(授業態度)		10						
その他 ()			—						
合計			100%						
□テキスト				□参考図書・資料・参考ホームページ					
最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ (中央法規)				随時お知らせします。					
最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ (中央法規)									

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護福祉とは ①	介護の成り立ち
2	介護福祉とは ②	専門職による介護が誕生した社会的な背景
3	介護福祉とは ③	介護の本質をとらえる考え方の移り変わり ①
4	介護福祉とは ④	介護の本質をとらえる考え方の移り変わり ②
5	介護福祉とは ⑤	介護福祉の基本理念とは
6	介護福祉とは ⑥	尊厳を支える介護
7	介護福祉とは ⑦	自立を支える介護
8	介護福祉とは ⑧	尊厳を支える介護とは (演習)
9	介護福祉士の役割と機能 ①	介護福祉士の活動の場と役割
10	介護福祉士の役割と機能 ②	社会福祉士及び介護福祉士法
11	介護福祉士の役割と機能 ③	社会福祉士及び介護福祉士法に関する諸規定
12	介護福祉士の役割と機能 ④	心身状況に応じた介護を考える (演習)
13	介護福祉士の役割と機能 ⑤	介護福祉士の義務規定について (演習)
14	介護福祉士の役割と機能 ⑥	介護福祉士養成カリキュラムの移り変わり
15	定期試験	筆記試験

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	介護福祉士の倫理 ①	介護実践における倫理
17	介護福祉士の倫理 ②	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応
18	介護福祉士の倫理 ③	〃
19	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ ①	生活を支えるフォーマルサービスとは
20	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ ②	生活を支えるインフォーマルサービスとは
21	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ ③	地域連携の意義と目的
22	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ ④	地域連携に関わる機関の理解と地域連携の実際
23	協働する多職種の機能と役割 ①	多職種連携協働とは
24	協働する多職種の機能と役割 ②	なぜ多職種連携協働が必要なのか
25	協働する多職種の機能と役割 ③	多職種連携協働に求められる基本的な能力 ①
26	協働する多職種の機能と役割 ④	多職種連携協働に求められる基本的な能力 ②
27	協働する多職種の機能と役割 ⑤	保健・医療・福祉職の役割と機能①
28	協働する多職種の機能と役割 ⑥	保健・医療・福祉職の役割と機能②
29	協働する多職種の機能と役割 ⑦	多職種連携の実際
30	定期試験	筆記試験

科目名	コミュニケーション技術 I			担当教員	松田 朗		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、PSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
<input type="checkbox"/> 位置付け 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 ①介護におけるコミュニケーションの基礎を理解する。 ②介護場面における利用者や家族への援助的コミュニケーション技法を習得する。 ③利用者の特性に応じた援助的コミュニケーション技法を理解する。 ④家族とのパートナーシップ構築の必要性（効果）を理解する。 ⑤介護におけるチームのコミュニケーション技法を習得する。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 ①より効果的な（サービスの質が高まる）支援関係を創るための要点を説明できる。 ②身体化の重要性、受容と共感の難しさ、閉ざされた心を開く方法について説明ができる。 ③コミュニケーション障害のある利用者に対して不安・不快・不信感を抱かせない対応を説明できる。 ④家族とのパートナーシップを築く際に注意することを説明できる。 ⑤チーム内の連携を促進するための基本的な行動の要点を説明できる。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント			
出席状況					—	・毎回の授業で振り返りレポートを作成していただきます。このレポートには出席状況点が含まれます。 ・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。 <input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・思考も行動も柔軟に。感性を磨き、遊び心を大切にしましょう。 ・学びを一緒に楽しみましょう。 ・メアド matsuda.akira@wasedasokki.jp			
試験等	提出物		—						
	レポート		50						
	随時試験		—						
	定期試験		50						
	平常の授業状況（ ）		—						
その他（ ）		—							
合計					100%				
<input type="checkbox"/> テキスト 最新 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術（中央法規）					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ 「わかりあえないことから」平田オリザ著 「聴く・伝える・共感する技術便利帳」大谷佳子著				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護におけるコミュニケーションの基本①	科目の説明・レポートの書き方・評価方法の説明/意義と目的/役割と支援対象への理解/支援関係を構築改善し継続していくための基本的な知識を学びます。
2	介護におけるコミュニケーションの基本②	
3	コミュニケーションの基本技術①	ペアワークやグループワークを通して、傾聴・受容・共感といった介護におけるコミュニケーションの基盤となる技術をより確かなレベルに引き上げ/言語・非言語を意図的に効果的に使いこなすための基本的な技術の修得と/支援の対象者の潜在力を引き出す技術の修得を目指します。
4	コミュニケーションの基本技術②	
5	対象者の特性に応じたコミュニケーション①②③④⑤⑥	コミュニケーション障害への対応の基本を学び/様々なコミュニケーション障害（視覚障害・聴覚障害・構音障害・失語症・認知症・うつ病・抑うつ症状・統合失調症・知的障害・発達障害・高次脳機能障害・重症心身障害など）がある人への基本的な支援方法を学びます。
6		
7		
8		
9		
10		
11	家族とのコミュニケーション①	家族とのパートナーシップを構築し、さらに改善・継続させていくための知識と技術の習得を目指します。
12	家族とのコミュニケーション②	
13	介護におけるチームのコミュニケーション②	意義と目的を理解し、より機能的なチームを創造していくための知識と技術（報告・連絡・相談・記録・会議・情報管理・事例検討等）の習得を目指します。
14	介護におけるチームのコミュニケーション③	
15	期末試験	

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ			担当教員	高須 一美		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	手話通訳士として、TV通訳、政見通訳、講演会、学校、介護施設等で通訳業務20年以上。現場で役立つ技術を指導していきます。						
□位置付け 聴覚障害のある人たちのコミュニケーション手段を知ることによって、聴覚障害者への理解を深める。コミュニケーションの方法の一つとして手話の基礎技術を習得する。									
□授業の目的 聴覚障害とはどのような聴覚なのかを理解し、支援に際して何をどのようにしていくのかを理解する。コミュニケーション方法の一つとして手話の基礎技術を習得する。									
□授業の到達目標 聴覚障害の方々とどの様に関わっていけるか、手話を通して考え身に付けていく。現場で生かせる技術を身に付ける。介護の現場で役立つ手話を習得する。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				10	相手を理解する力、自ら積極的に関わっていく能力を身に付けることを考えます。 手話の基礎技術の習得を評価します。 □学生へのメッセージ まず、出席してください。そして一緒に手を動かし、自分のものにして下さい。授業に出て良かったと思える講義を目指します。				
試験等	提出物		—						
	レポート		—						
	随時試験		—						
	定期試験（実技）		80						
	平常の授業状況（授業中実技）		10						
合計				100%					
□テキスト 新手話ハンドブック（三省堂）					□参考図書・資料・参考ホームページ 「わたしたちの手話 学習辞典」全日本ろうあ連盟				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	手話とは 挨拶	手話とは 聴覚障害とは 挨拶を手話で表現
2	名前の表現	学生一人一人の名前の表現 知人の名前を表わしてみる
3	指文字	50音の表現方法
4	数字 聴覚障害	数字の表現方法 DVDを見て聴覚障害を考える
5	時制	曜日の表現
6	時制	現在・過去・未来
7	疑問詞	何・どこ・どちら・誰
8	疑問詞	いくつ・いくら・何故・いつ・どうやって
9	日常会話	日常の場面を設定して会話をする
10	日常会話	〃
11	介護の場で使える手話	介護する場面で使える手話を学ぶ
12	現場で使える手話	介護・施設など現場で使える手話を学ぶ
13	自己紹介	自分の事・友人の事が手話で表現できる様にする
14	まとめ	全体のまとめ
15	定期試験	定期試験

科目名	生活支援技術 I			担当教員	平井 範子		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	中学・高等学校で家庭科の教諭をしていた。高齢者の食事について演習を中心指導する。						
□位置付け 利用者の心身の状況に応じた食事を通して、QOLの向上が図れる。									
□授業の目的 高齢者や障害者などの利用者にとって、安全でかつ円滑に調理ができるようにするために必要な様々な知識を学ぶ。そのためには、調理の基本、栄養学的知識、病気に対する知識、衛生面に対する知識等、多方面にわたる学習が必要だと思われる。 教室で学んだ知識を実際の調理と結びつけて考えることが大切である。									
□授業の到達目標 ①バランスのとれた献立作成ができるようにする。 ②いくつかの疾病に対する病人食を理解することができる。 ③それぞれの利用者の状態に応じた調理ができる能力を養う。 ④高齢者等が経験してきた行事食や郷土料理についてもある程度理解できる。 ⑤他の家政学関連等の授業とのつながりを持って思考できるようにする。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				10	実習の翌週ごとにレポートを提出します。1つでも提出されていない場合は再試験になりますので注意して下さい。教室での授業や実習中も積極的に取り組んで下さい。定期試験は最後に60分で行います。(持込不可) □学生へのメッセージ 必ず、実習前日にもう一度内容に目を通し、ある程度頭の中でイメージ、手順を固めてくること。実習後にも家でやってみて下さい。少しずつの積み重ねが調理が得意になるポイントです。また、グループ学習ですから楽しく、チームワーク良く、失敗を恐れずにやって下さい。				
試験等	提出物		—						
	レポート		15						
	随時試験		—						
	定期試験		65						
	平常の授業状況(授業態度)		10						
その他()				—					
合計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
・最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I (中央法規) ・新食品成分表 FOODS (東京法令出版)									

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	授業の概要	実習に関する諸注意、実習室の見学、次回実習説明
2	献立について	食事摂取基準、料理の組み合わせ
3	実習 1	御飯、清し汁、炒りどり、お浸し
4	基礎	
5	献立作成	食品群別摂取量のめやす、献立の立て方
6	栄養価計算	栄養価計算のやり方、前回レポート提出、次回実習説明
7	実習 2	お粥、鶏すり流し汁、炒り豆腐、ヨーグルトジュース
8	老人介護食	鶏みそ、増粘剤の使用
9	病人食について	老人食、減塩食、糖尿病食、貧血食
10		栄養価計算レポート、前回実習レポート提出
11	実習 3	パン、ポークピッツァソース、ナムル和え
12	減塩食	
13	食品衛生	食中毒
14		前回実習レポート提出
15	定期試験	

科目名	生活支援技術Ⅱ			担当教員	松田 朗		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、PSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
□位置付け 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。									
□授業の目的 <ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 ・自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。 ・リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。 									
□授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士の専門性である生活支援を看護とソーシャルワークとの違いを用いて説明できる。 ・ICFの活用の仕方を説明できる。 ・チームアプローチの重要性を説明できる。 ・福祉用具選定時の注意事項を列挙できる。 ・介護の現場で想定できる事故とその予防法を列挙できる。 ・災害時の生活支援の重要性を説明できる。 									
□成績評価の方法				評価項目	割合	□成績評価に関するコメント <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で振り返りレポートを作成していただきます。このレポートには出席状況点が含まれます。 ・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。 			
出席状況						□学生へのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> ・思考も行動も柔軟に。遊び心を大切に、感性を磨きましょう。 ・学びを一緒に楽しみましょう。 ・メアド matsuda.akira@wasedasokki.jp 			
試験等	提出物				—				
	レポート				50				
	随時試験				—				
	定期試験				50				
	平常の授業状況(授業態度)				—				
その他(実技試験)									
合計					100%				
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ(中央法規)					□参考図書・資料・参考ホームページ 授業の中で随時お知らせします。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	講師紹介/授業内容解説/評価方法解説/学びのキーワード
2	生活支援の基本的な考え方	生活支援のポイント、ライフサイクルと生活の豊かさを学ぶ。
3	生活支援と介護過程①	ICFの視点に基づく生活支援について学びます。
4	生活支援と介護過程②	利用者を理解するためのICFの視点について学びます。
5	生活支援とチームアプローチ	チームアプローチの重要性を学びます。
6	まとめのテスト/振り返り	1回目から5回目までの授業の内容を整理します。
7	生活支援における福祉用具の重要性	福祉用具を使用する意義について学びます。
8	福祉用具の種類	福祉用具の分類と福祉用具に関する制度について学びます。
9	適切な福祉用具を選ぶための視点	福祉用具の選定に必要な視点と知識を学びます。
10	まとめのテスト/振り返り	7回目から9回目の授業の内容を整理します。
11	介護福祉と応急手当て	想定される事故と予防の視点を学びます
12	応急手当ての実際	代表的なおい旧手当の実際と三角巾の使い方を学びます。
13	被災地で活動する際の心構え	生活支援の重要性、支援継続可否の判断等について学びます。
14	災害時における生活支援	被災地での活動場所、ハザードマップ等について学びます。
15	定期試験	筆記試験

科目名	生活支援技術Ⅲ			担当教員	武石・中嶋		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前・後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士及び介護支援専門員として介護保険施設・事業所に勤務。施設及び在宅介護での実務経験をもとに、介護福祉での大切な視点、利用者の日常生活の介護の方法について指導する。						
□位置付け 「尊厳の保持」「自立支援」の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、残存能力を活かし潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得するための科目。									
□授業の目的 ・介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 ・自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。 ・リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。									
□授業の到達目標 ・あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。 ・介護実践の根拠を理解する。 ・介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。 ・利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。 ・利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者一人ひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				30	出席状況、レポート、定期試験、授業態度、実技試験が評価対象になります。 □学生へのメッセージ 身だしなみ等を整えてください。 整っていない場合は見学になります。				
試験等	提出物			—					
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			30					
	平常の授業状況(授業態度)			10					
その他(実技試験)			30						
合計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ (中央法規)					担当教員により随時お知らせします。				
最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ (中央法規)									

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	基本となる介護技術とは何か	生活支援技術とは何か 介護の専門性とは何か
2	移動の介護	ボディメカニクスとは何か
3	生活環境の整備	ベッド周囲の環境整備、ベッドメイキング
4	〃	ベッドメイキング
5	移動の介護	移動の意義・目的 福祉用具の活用
6	〃	福祉用具の活用、移動における生活支援技術(ベッド上の移動)
7	〃	移動における生活支援技術(ベッド上の移動)
8	〃	移動における生活支援技術(移乗介助)
9	〃	〃
10	身じたくの介護	身じたくの意義・目的
11	〃	衣類の着脱の介護
12	〃	衣類の着脱の介護、整容(洗顔、ドライヤー)
13	食事の介護	食事の意義・目的 食事における生活支援技術
14	〃	食事における生活支援技術
15	実技試験	技術の確認

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	定期試験	筆記試験
17	入浴・清潔保持の介護	清潔保持の意義と目的、入浴の意義と目的
18	〃	入浴における生活支援技術
19	〃	〃
20	〃	振り返り
21	排泄の介護	排泄における生活支援技術の意義・目的、福祉用具の活用
22	〃	排泄における生活支援技術（トイレ誘導・ポータブルトイレ誘導）
23	〃	排泄における生活支援技術（尿器・便器）
24	〃	排泄における生活支援技術（オムツ）
25	〃	排泄における生活支援技術（オムツ）、振り返り
26	身じたくの介護	口腔ケアの意義と目的
27	〃	口腔ケアにおける生活支援技術
28	まとめ	振り返り
29	実技試験	技術の確認
30	定期試験	筆記試験

科目名	生活支援技術V			担当教員	倉若 美咲樹		単位数	2																																													
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	○																																												
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○																																												
実務経験 教員		実務経験 内容																																																			
<input type="checkbox"/> 位置付け 利用者の心身の状態や生活を理解し、自立支援・介護予防の観点から家事支援の在り方について理解する。																																																					
<input type="checkbox"/> 授業の目的 介護を必要とする人に対する基本的な生活支援の技術について学ぶとともに、そのために必要な基礎的な知識を習得することを目的とする。																																																					
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> 幅広く生活の支援ができるように、家事（室内環境の整備、調理、洗濯、裁縫等）の介助に関する基礎的な知識と技術を習得する。 利用者の心身の状態や生活を理解し、自立支援・介護予防の観点から家事支援のあり方について理解できる。 利用者がその人らしい生活を継続していくには、どのような支援が必要なのかを考えることができる。 																																																					
<table border="1"> <tr> <td colspan="2"><input type="checkbox"/>成績評価の方法</td> <td>評価項目</td> <td>割合</td> <td colspan="6"><input type="checkbox"/>成績評価に関するコメント</td> </tr> <tr> <td colspan="2">出席状況</td> <td></td> <td>10</td> <td colspan="6" rowspan="6"> 出席状況や課題へ取り組み方も評価の対象となります。 レポートは、期日を守り、必ず提出するようにしてください。 定期試験は持ち込み不可です。 <input type="checkbox"/>学生へのメッセージ テキストと配布プリントを中心に進めますが、大切だと思う事柄はメモを取るようにしましょう。 日常生活に直結する内容ですので、自分自身の生活についても考える機会にしてほしいと思います。 </td> </tr> <tr> <td rowspan="5">試験等</td> <td>提出物</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>作文</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>随時試験</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>平常の授業状況（ ）</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>その他（レポート）</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> </table>										<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント						出席状況			10	出席状況や課題へ取り組み方も評価の対象となります。 レポートは、期日を守り、必ず提出するようにしてください。 定期試験は持ち込み不可です。 <input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ テキストと配布プリントを中心に進めますが、大切だと思う事柄はメモを取るようにしましょう。 日常生活に直結する内容ですので、自分自身の生活についても考える機会にしてほしいと思います。						試験等	提出物		—	作文		—	随時試験		—	定期試験		70	平常の授業状況（ ）		—			その他（レポート）	20	合計			100%
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント																																																	
出席状況			10	出席状況や課題へ取り組み方も評価の対象となります。 レポートは、期日を守り、必ず提出するようにしてください。 定期試験は持ち込み不可です。 <input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ テキストと配布プリントを中心に進めますが、大切だと思う事柄はメモを取るようにしましょう。 日常生活に直結する内容ですので、自分自身の生活についても考える機会にしてほしいと思います。																																																	
試験等	提出物		—																																																		
	作文		—																																																		
	随時試験		—																																																		
	定期試験		70																																																		
	平常の授業状況（ ）		—																																																		
		その他（レポート）	20																																																		
合計			100%																																																		
<input type="checkbox"/> テキスト 新・介護福祉士養成講座第6 生活支援技術I（中央法規） 新食品成分表 FOODS（東京法令出版）					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ 随時紹介します。																																																

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	家庭生活の理解	高齢者を中心とする家庭生活の営みと生活設計
2	居住環境の整備	住宅各所の空間構成
3	居住環境の整備と家事支援①	安全で快適な室内環境の整備
4	居住環境の整備と家事支援②	安全で快適な室内環境の整備、掃除・ごみ捨ての介助
5	食生活の基本知識①	栄養の理解、消化と吸収
6	食生活の基本知識②	食品の種類と調理性、食材の選び方
7	高齢者の身体機能と栄養	高齢者の身体の変化と栄養・食生活の特徴
8	高齢者の食事と調理	高齢者の食事と調理、行事食の意義
9	疾患と食事	生活習慣病と食生活、食事による予防と改善
10	在宅介護における調理支援	調理支援の意義と進め方
11	被服生活の基本知識	被服の機能、素材と性質
12	被服生活と家事支援①	被服の洗濯と保管
13	被服生活と家事支援②	裁縫（衣類の補修）
14	家庭経営・家計の管理	家庭管理とその支援
15	定期試験	

科目名	生活支援技術VI			担当教員	山内 朝江		単位数	2	
対象学科	介護福祉科			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	授業期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として臨床経験7年、訪問看護3年、デイサービス3年。介護の専門学校、看護大学(老年担当)において受け持ち利用者の現場実習指導経験約10年、これらの体験談を授業内容に反映し理解につなげる。						
□位置付け 障害や疾病に関する基礎的知識の理解や状態変化の把握を行い、生活上の困難に対しどのようにかかわるか学ぶ。特に障害に伴う基礎疾患として多い内部障害や脳血管障害、パーキンソン病、高次脳機能障害などがある方々の生活支援技術について学ぶ。									
□授業の目的 障害者1人1人に合わせた個別ケアを実践出来る様に障害や疾病の理解とその介護について習得する。そのためには、まずそれぞれの障害の医学的・心理的側面から基礎知識を学ぶ。また、障害のある人への支援において、多職種連携の中で介護福祉士が果たすべき役割を理解する。									
□授業の到達目標 障害者の状態、状況に応じた生活支援技術について、その方法や技術を身に付ける。 例えば、高齢者は急変しやすいため、呼吸困難などそれぞれの疾病、障害の病状・観察点を把握し、気づいたら即、医療者に報告できるようにする。 各疾病に伴う病状変化をはじめ日常生活上困難などの状態、状況に応じて、安全で安楽な対応や工夫ができること。 障害がある方の身体的援助技術(実技)及び事例などを通して実践ができるようにする。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				—	定期試験、レポート、授業態度などで評価します。 授業態度については減点対象とします。				
試験等	提出物			—	□学生へのメッセージ 現場で多くみられる様々な障害の概要とその対応について、介護福祉士としてどのような介護が求められるか、教材資料やビデオを活用しながら説明していきます。 教科書の要点や必要内容を配付しますが、事前に教科書を読んで授業に臨むこと。実技は実習着に着替えて行います。				
	レポート			10					
	随時試験			—					
	定期試験			90					
	平常の授業状況(授業態度)			—					
その他()			—						
合計				100%					
□テキスト 最新介護福祉士養成講座8生活支援技術Ⅲ(中央法規)					□参考図書・資料・参考ホームページ 毎回配付します。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション、運動機能障害の介護	運動機能障害の基礎的理解、介護に関する基本的考えレポート
2	脊髄損傷者の介護	疾病の理解と状態変化の対応、移動の実技含む
3	脳血管障害者の介護	後遺症理解と二次障害予防、リハビリ、移乗の実技含む
4	失語症、構音障害者の介護	後遺症である失語症、構音障害者とのコミュニケーション
5	パーキンソン病者の介護	パーキンソン病の特徴と運動障害の対応、歩行援助
6	膠原病特に関節リウマチ者の介護	関節リウマチの特徴、最近の治療進歩、肢体不自由者への対応
7	心臓機能障害者の介護	主な心疾患の特徴、症状観察ポイント、急変時の対応
8	直腸機能障害者の介護	直腸切除後の対応、介護者としての観察・処置、実技含む
9	膀胱、泌尿器障害者の介護	膀胱カテーテル留置者の注意点、対処、実技含む
10	腎機能障害者の介護	腎機能障害者の理解と日常生活指導
11	呼吸器機能障害者の介護	主な呼吸器疾患の理解と症状観察ポイント、急変時の対応
12	高次脳機能障害に応じた介護①	高次脳機能障害(認知系、行為系)の症状と特徴などの理解
13	〃 ②	認知系、行為系の観察の視点と対応 事例を通して深める
14	まとめ	本教科で学習した内容の総確認、過去問題など
15	定期試験	筆記

科目名	介護過程 I			担当教員	中嶋 純也		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前・後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士及び介護支援専門員として介護施設・事業所に20年勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護実践で大切な根拠ある介護方法についての思考過程の展開について講義する。						
□位置付け 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。									
□授業の目的 ①介護を必要とする人の生活をどのように支援しなければならないのか展開方法を理解する。 ②利用者を知るための情報を、様々な項目・方法で引き出すことの手法を習得する。 ③利用者を支えるためのチームによるケアの適切な支援の提供について学ぶ。									
□授業の到達目標 ①介護過程の展開が利用者の個別ケア実践になぜ必要なのか理解できる。 ②利用者の全体像を把握する観察力（客観的情報・主観的情報）を身につけることができる。 ③利用者にかかわる介護福祉職と関係職種が共通の目標をもってケアを実践する。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				30	出席状況、提出物、定期試験、授業態度すべて評価に含まれます。特に提出物は提出期限、授業態度はルールを厳守してください。評価の詳細は、初回の授業にて説明します。 □学生へのメッセージ この授業は、それぞれの思い、感じたことを言葉にして、お互いの情報を共有するところから始まります。ぜひ、全員参加をしながら授業に取り組んでいきましょう。				
試験等	提出物			40					
	レポート								
	随時試験								
	定期試験			20					
	平常の授業状況（ ）			10					
その他（ ）									
合計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座9 介護過程（中央法規）					□参考図書・資料・参考ホームページ 担当教員により随時ご紹介いたします。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	
2	介護過程とは	介護過程のイメージ作り①（事例検討）
3		介護過程のイメージ作り②（事例検討）
4		介護過程の意義・目的①
5		介護過程の意義・目的②（事例検討）
6		介護過程の全体像①
7		介護過程の全体像②（事例検討）
8	生活支援における介護過程の必要性	生活支援における介護過程の意義①
9		生活支援における介護過程の意義②（事例検討）
10	介護過程の理解	アセスメントの思考の方法①
11		アセスメントの思考の方法②（事例検討）
12		アセスメントの視点の提示①
13		アセスメントの視点の提示②（事例検討）
14		介護過程の展開（アセスメントの整理）
15	定期試験	レポート

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	介護過程の展開	介護過程のプロセス
17	アセスメント	情報収集①
18		情報収集②（事例検討）
19		情報収集③（事例検討）
20		情報収集④（事例検討）
21		情報収集⑤（事例検討）
22		時代背景を調べる①
23		時代背景を調べる②
24		時代背景を調べる③
25	ケーススタディ	ケーススタディ①
26		ケーススタディ②
27	アセスメント	解釈・関連付け・統合化①
28		解釈・関連付け・統合化②（事例検討）
29		解釈・関連付け・統合化③（事例検討）
30	定期試験	

科目名	介護総合演習 I			担当教員	中嶋・熊谷		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前・後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護支援専門員及び介護福祉士として介護保険施設・事業所に5年以上勤務。施設及び在宅介護での実務経験をもとに介護福祉での大切な視点を伝える。						
□位置付け 介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。質の高い介護実践やエビデンスの構築に繋がる実践研究の意義とその方法を理解する。									
□授業の目的 <ul style="list-style-type: none"> 介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。 									
□授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> 介護実習の重要性について理解できる。 介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備ができる。 介護実習を通じて学校内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ实际的に理解できるようになる。 習得した学内諸学習を応用し、実践的な技術等を身につけられる。 介護福祉士としての自覚ができ、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合的対応力を取得できる。 									
□成績評価の方法				評価項目	割合	□成績評価に関するコメント			
出席状況					50	定期試験としての筆記や実技の試験はありませんが、出席状況、提出物、レポート、授業態度で評価されます。提出物、レポート等は担当教員からの説明をよく聞き指示に従ってください。 □学生へのメッセージ 介護総合演習は介護実習が充実した意義のあるものにするための授業です。			
試験等	提出物				30				
	レポート				—				
	随時試験				—				
	定期試験				20				
	平常の授業状況(授業態度)				—				
その他 ()				—					
合計					100%				
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
<ul style="list-style-type: none"> 最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 (中央法規) 介護実習の手引き 					担当教員より随時ご紹介します。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護福祉士に求められるもの	介護福祉士に求められる能力
2	介護実習の枠組みと全体像	介護実習とは何か
3	介護実習 I オリエンテーション	介護実習 I の目的・意義
4	〃	介護実習 I の目標と個人の目標
5	〃	介護実習 I に関連した事前学習
6	施設・事業所見学	利用者の日常生活とは何か
7	施設・事業所見学	〃
8	記録の意義・目的	実習記録(日誌)の目的と必要性
9	〃	〃
10	介護実習 I オリエンテーション	実習の心構え 介護実習 III の進め方、取り組み方
11	〃	実習巡回教員による個別指導
12	介護実習 I 帰校日	実習巡回教員による個別指導
13	〃	〃
14	介護実習 I の報告	介護実習 I で得た学びの共有
15	定期試験	レポート

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	介護実習Ⅰの振り返り	介護実習Ⅰに関連した事後学習
17	介護実習Ⅱオリエンテーション	介護実習Ⅱの目的・意義 介護実習Ⅱに関連した事前学習
18	〃	介護実習Ⅱの目標と個人の目標
19	介護実習Ⅱにおける介護過程の展開	アセスメントの意義・視点とは何か
20	〃	〃
21	記録の意義・目的	介護実習Ⅱにおける実習記録（日誌）の目的と必要性
22	〃	〃
23	介護実習Ⅱオリエンテーション	実習の心構え 介護実習Ⅲの進め方、取り組み方
24	〃	実習巡回教員による個別指導
25	介護実習Ⅱ 帰校日	実習巡回教員による個別指導
26	〃	〃
27	〃	〃
28	〃	〃
29	介護実習Ⅱの報告	介護実習Ⅱで得た学びの共有
30	定期試験	レポート

科目名	介護実習 I			担当教員	岩上・熊谷・中嶋		単位数	3	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師、介護福祉士、介護支援専門員として介護施設・事業所等に5年以上勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護福祉での大切な視点を伝える。						
□位置付け 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。									
□授業の目的 実習は、介護の実践を学ぶ場であり、専門職業人としての自己形成の場でもある。介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や、領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなど、これまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。									
□授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをとり、利用者および職員と人間関係を築くことができる。 ・利用者の生活に関心を持ち、生活環境や1日の過ごし方を知る。 ・安全と安楽に留意し、基本的介護技術を体験する（見学を含む）。 ・実習生の視点から観察、記録、報告ができる。自分の体験を、記録を通し考察することができる。 ・実習施設の概要、実習施設の特性を知る。介護職の役割と業務内容を理解する。 									
□成績評価の方法				評価項目	割合	□成績評価に関するコメント			
出席状況					60	・介護実習の継続が困難と認められる場合、実習を中止し、単位認定をしない場合があります。 ・その他、習得すべき内容が伴わない場合は、単位認定をしない場合があります。 □学生へのメッセージ 介護実習は利用者、実習施設、指導者等の協力があって成立します。ルールを守り、欠席しないよう調整してください。実習期間中は巡回担当教員が定期的に指導を行います。何でも遠慮なく相談してください。			
試験等	提出物				—				
	レポート				—				
	随時試験				—				
	定期試験				—				
	平常の授業状況（実習の状況）				40				
その他（ ）				—					
合計					100%				
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
<ul style="list-style-type: none"> ・最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（中央法規） ・介護実習の手引き 									
□授業計画									
回数	テーマ			授業の内容、進め方					
	介護実習 I			オリエンテーション（実習前もしくは実習初日に実施される）					
	(12日間)			コミュニケーション					
				生活支援技術（身じたくの介護）					
				〃（移動の介護）					
				〃（食事の介護）					
				〃（入浴・清潔保持の介護）					
				〃（排泄の介護）					
				〃（睡眠の介護）					
				レクリエーション					
				※コミュニケーション、生活支援技術等は利用者とのかかわりや介護の実践を通して繰り返し学んでいく。					
				※上記の項目は実習内容である。ただし、実習先のスケジュールに従い内容は変更されることがある。					
				24時間の利用者の生活状況を把握するため、実習は日中の時間帯だけでなく早番・遅番などの変則勤務（実習）を体験することがある。					

科目名	介護実習Ⅱ			担当教員	岩上・熊谷・中嶋		単位数	5	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師、介護福祉士、介護支援専門員として介護施設・事業所等に5年以上勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護福祉での大切な視点を伝える。						
□位置付け 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。									
□授業の目的 実習は、介護の実践を学ぶ場であり、専門職業人としての自己形成の場でもある。介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や、領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなど、これまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。									
□授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション等により利用者が気持ちや考えを表現できるようなかかわりができる。 ・利用者の生活背景、心身の状況など、全体像を把握する。 ・安全と安楽に留意し、基本的介護技術を体験する。利用者の状況に応じた介護技術を工夫できる。 ・利用者の個別性について観察、記録、報告ができる。介護過程展開の基礎を学ぶ。 ・実習施設の概要を踏まえ、施設の役割と機能を理解できる。 ・関係職種の役割を理解し、連携のあり方を学ぶ。 									
□成績評価の方法				評価項目	割合	□成績評価に関するコメント			
出席状況					60	・介護実習の継続が困難と認められる場合、実習を中止し、単位認定をしない場合があります。 ・その他、習得すべき内容が伴わない場合は、単位認定をしない場合があります。 □学生へのメッセージ 介護実習は利用者、実習施設、指導者等の協力があって成立します。ルールを守り、欠席しないよう調整してください。実習期間中は巡回担当教員が定期的に指導を行います。何でも遠慮なく相談してください。			
試験等	提出物		—						
	レポート		—						
	随時試験		—						
	定期試験		—						
	平常の授業状況（実習の状況）		40						
その他（ ）					—				
合計					100%				
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
・最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（中央法規） ・介護実習の手引き									
□授業計画									
回数	テーマ			授業の内容、進め方					
	介護実習Ⅱ (19日間)			オリエンテーション（実習前もしくは実習初日に実施される）					
				コミュニケーション					
				生活支援技術（身じたくの介護）					
				〃（移動の介護）					
				〃（食事の介護）					
				〃（入浴・清潔保持の介護）					
				〃（排泄の介護）					
				〃（睡眠の介護）					
				〃（看取りの介護）					
				レクリエーション					
				介護過程展開の基礎（1人の利用者の全体像をとらえる、ニーズが把握できる）					
				※上記の項目は実習内容である。ただし、実習先のスケジュールに従い内容は変更されることがある。					
				24時間の利用者の生活状況を把握するため、実習は日中の時間帯だけでなく遅番・早番・夜勤などの変則勤務（実習）を体験することがある。					

科目名	こころとからだのしくみⅠ			担当教員	飯田 美里		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として、がん専門病院（消化器、呼吸器、乳腺、整形外科病棟、術後回復室等）に7年、訪問看護7年、放課後等デイサービス（重症心身障がい児のケア）3年勤務。介護に必要なこころとからだのしくみについて指導する。						
□位置付け 介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。									
□授業の目的 この科目では、心と体の両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。また、残存能力・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出す。									
□授業の到達目標 1. 人間の基本的な心と体のしくみについて理解する。 2. 身じたく及び排泄に関連した心と体のしくみについて理解する。 3. 身じたく及び排泄に関連した心と体の変化について理解し、利用者の状態の変化に気づくことができるようになる。また、医療職との連携について理解する。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				—	・授業態度、グループワークへの取り組み、定期試験で評価します。 □学生へのメッセージ ・専門用語やわからない言葉は調べておきましょう。 ・授業中はノートを取る習慣をつけましょう。 ・グループワークでは自分の意見をしっかり述べ、積極的に取り組みましょう。				
試験等	提出物			—					
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			90					
	平常の授業状況(授業態度)			10					
その他()			—						
合計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ (中央法規)					□参考図書・資料・参考ホームページ 適宜紹介します。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	「健康」とは何か	健康の定義 「健康」づくり 健康観 病気の概念
2	からだのしくみを理解する	からだの部位の役割 / 細胞・遺伝 身体各部の名称 内臓の名称
3		からだの部位の役割 / 脳・神経
4		からだの部位の役割 / 感覚器 (視覚器・平衡聴覚器)
5		からだの部位の役割 / 感覚器 (嗅覚器・味覚器・皮膚)
6		からだの部位の役割 / 呼吸器
7		からだの部位の役割 / 循環器
8		からだの部位の役割 / 消化器 (消化管)
9		からだの部位の役割 / 消化器 (消化腺)
10		からだの部位の役割 / 泌尿器
11		からだの部位の役割 / 骨・関節・筋肉・神経系
12		からだの部位の役割 / 生殖器
13		からだの部位の役割 / 内分泌
14		からだの部位の役割 / 血液・体液・リンパ・心身の調和・薬の知識
15	定期試験	筆記試験

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	こころのしくみを理解する	人間の欲求とは 自己実現と尊厳
17		こころのしくみの基礎
18		〃
19	身じたくに関連したしくみ	身じたくのしくみ
20		〃
21		〃
22		心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響
23		〃
24		身じたくにおける観察のポイントと対応 医療職との連携
25	排泄に関連したしくみ	尿排出のしくみ
26		心身の機能低下が排尿に及ぼす影響
27		便排出のしくみ
28		心身の機能低下が排便に及ぼす影響
29		排泄における観察のポイントと対応 医療職との連携
30	定期試験	筆記試験

科目名	障害の理解			担当教員		越永 至道		単位数	4
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	市社会福祉協議会の常勤職員として障害者支援を中心に地域在宅福祉に36年間従事し、昨年度副参事職で退職。この間、社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士資格を取得。本務と併せて制度創設以来介護認定審査会並びに障害支援区分等審査会の委員として審査業務に従事。長年の豊富な実務経験から得た知見を学生にわかりやすく伝えていく。						
□位置付け 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解する。									
□授業の目的 支援費制度の導入を経て様々な問題を顕在化させながら成立した障害者自立支援法の施行と障害者総合支援法への展開、障害者権利条約への対応を念頭に置いた障害者基本法の改正と障害者差別解消法の創設、障害者虐待防止法の改正の動向等々、障害者福祉は大きな変化に直面している。このような動向を踏まえつつ、介護福祉士として、障害のある人たちの地域生活を支援するために必要とされる基礎的な知識を総合的に修得する。									
□授業の到達目標 1) 基本的人権、権利擁護と障害者福祉の理念について理解する。 2) 障害の概念について理解する。 3) 障害のある人の状態像と心理について学ぶ。 4) 障害のある人への介護上の留意点について学ぶ。 5) 家族への支援と連携及び協働について学ぶ。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				40	出席と授業態度を重視し成績評価を実施する。				
試験等	提出物			—	□学生へのメッセージ テキストに加えて、ビデオやオリジナルの資料を活用し、興味深く学べるように工夫していきたい。介護福祉士という国家資格を取得することの責任を自覚しつつ、学びを深めていくことを期待する。				
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			40					
	平常の授業状況(授業態度)			20					
その他 ()			—						
合計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解(中央法規)					□参考図書・資料・参考ホームページ 厚生労働白書・障害者白書 厚生労働省ホームページ、WAM NETなど				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション・基本的人権と障害者福祉	資料・テキストによる説明、解説
2	権利擁護と障害者福祉の基本理念	資料・テキストによる説明、解説
3	障害の概念(ICIDHとICF)と法的定義	資料・テキストによる説明、解説
4	障害の状態像と生活実態について	資料・テキストによる説明、解説/ビデオ視聴による学習
5	視覚障害のある人の状態像と心理の理解	資料・テキストによる説明、解説/ビデオ視聴による学習
6	視覚障害のある人の生活と介護上の留意点	資料・テキストによる説明、解説
7	聴覚・言語障害のある人の状態像と心理の理解	資料・テキストによる説明、解説/ビデオ視聴による学習
8	聴覚・言語障害のある人の生活と介護上の留意点	資料・テキストによる説明、解説
9	肢体不自由(運動機能障害)のある人の状態像と心理の理解	資料・テキストによる説明、解説/ビデオ視聴による学習
10	肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活と介護上の留意点	資料・テキストによる説明、解説
11	心臓機能障害、腎臓機能障害、膀胱・直腸機能障害のある人の状態像と心理の理解	資料・テキストによる説明、解説/ビデオ視聴による学習
12	心臓機能障害、腎臓機能障害、膀胱・直腸機能障害のある人の生活と介護上の留意点	資料・テキストによる説明、解説

回数	テーマ	授業の内容、進め方
13	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害のある人の状態像と心理の理解	資料・テキストによる説明、解説／ビデオ視聴による学習
14	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害のある人の介護上の留意点	資料・テキストによる説明、解説
15	定期試験	
16	知的障害のある人の状態像と心理の理解	資料・テキストによる説明、解説／ビデオ視聴による学習
17	知的障害のある人の生活と介護上の留意点	資料・テキストによる説明、解説
18	重症心身障害のある人の状態像と心理の理解	資料・テキストによる説明、解説／ビデオ視聴による学習
19	重症心身障害のある人の生活と介護上の留意点	資料・テキストによる説明、解説
20	発達障害のある人の生活と状態像と心理	資料・テキストによる説明、解説／ビデオ視聴による学習
21	発達障害のある人の生活と介護上の留意点	資料・テキストによる説明、解説
22	精神障害のある人の状態像と心理の理解	資料・テキストによる説明、解説／ビデオ視聴による学習
23	精神障害のある人の生活と介護上の留意点	資料・テキストによる説明、解説
24	高次脳機能障害のある人の状態像と心理の理解	資料・テキストによる説明、解説／ビデオ視聴による学習
25	高次脳機能障害のある人の生活と介護上の留意点	資料・テキストによる説明、解説
26	難病のある人の状態像と心理の理解（その1）	資料・テキストによる説明、解説／ビデオ視聴による学習
27	難病のある人の状態像と心理の理解（その2）	資料・テキストによる説明、解説／ビデオ視聴による学習
28	難病のある人の生活と介護上の留意点	資料・テキストによる説明、解説
29	家族への支援及び障害者福祉における連携と協働について	資料・テキストによる説明、解説
30	定期試験	

科目名	医療的ケア I			担当教員	岩上 由紀子		単位数	5	
対象学科	介護福祉科			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として医療機関・保育園・訪問看護事業所に28年勤務。病院や在宅看護等での実務経験をもとに介護福祉で大切な視点を伝える。						
□位置付け 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。									
□授業の目的 1 医療的ケア実施の基礎を学ぶ 2 喀痰吸引の基礎的知識と実施手順を理解し実施できる 3 経管栄養の基礎的知識と実施手順を理解し実施できる									
□授業の到達目標 ・個人の尊厳と自立について理解し、利用者の尊厳を守り、自立を助ける医療的ケアの実践ができる。 ・保健医療に関する主な制度、介護保険に関する制度、及びその他関連する制度を説明できる。 ・安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性を説明できる。 ・状況に応じた感染予防法を説明できる。 ・健康時・急変時の状態と対応、報告について説明できる。 ・呼吸のしくみとはたらきを理解し、喀痰吸引の必要性和留意点を説明できる。 ・消化器系のしくみとはたらきを理解し、経管栄養の必要性和留意点を説明できる。 ・喀痰吸引に必要な物品が準備でき、適切安全に実施できる。 ・実施後の利用者の状態を観察し、報告ができる。 ・経管栄養に必要な物品が準備でき、適切安全に実施できる。 ・実施後の利用者の状態を観察し、報告ができる。 ・心肺蘇生の必要性が判断でき、実施できる。 ・AEDの基本操作ができる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				—	・授業態度、演習、グループワークへの取り組み、調べ学習、課題の提出、定期試験すべて重要です。				
試験等	提出物		—	・医療的ケア I の単位認定がされなければ医療的ケア II の履修は認めません。					
	レポート		10	・出席前提の科目です。評価項目には入れませんが欠席した場合は補習になるためご注意ください。					
	随時試験		—	□学生へのメッセージ					
	定期試験		90	医療的ケアは、基礎的な知識が必要です。また、操作を間違えると命に関わるため、緊張感を持ち取り組んでください。演習の際は、身だしなみ等を整えてください。整っていない場合は、見学となることがあります。					
	平常の授業状況 ()		—						
	その他 ()		—						
合計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア(中央法規)					□参考図書・資料・参考ホームページ 適宜紹介します				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	医療的ケア実施の基礎	医療的ケアの意義
2	人間と社会	個人の尊厳と自立 医療の倫理 利用者や家族の気持ちの理解
3	保健医療制度とチーム医療	保健医療に関する制度 医行為に関する法律
4	保健医療制度とチーム医療	チーム医療と介護職員との連携
5	安全な療養生活	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施
6	安全な療養生活	救急蘇生が必要なとき
7	安全な療養生活	救急蘇生法の手順と留意点
8	清潔保持と感染予防	感染予防 職員の感染予防【演習】
9	清潔保持と感染予防	療養環境の清潔・消毒法 滅菌と消毒
10	健康状態の把握	身体・精神の健康 平常状態について
11	健康状態の把握	健康状態を知る項目 (バイタルサインなど)
12	健康状態の把握	身体・精神の健康 健康状態と知る項目 健康な状態
13	健康状態の把握	身体・精神の健康 健康状態と知る項目 (バイタルサインなど)【演習】
14	健康状態の把握	急変状態について
15	定期試験	

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	呼吸のしくみとはたらき 喀痰吸引
17	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	子どもの吸引と喀痰吸引にともなう感染予防
18	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引の必要物品と消毒法
19	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	利用者の状態観察の注意点
20	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引前の利用者への説明
21	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引の実施手順の流れ ポイントと留意点
22	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	経管栄養の種類としくみ
23	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	経管栄養で使用される栄養剤
24	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	経管栄養実施の報告
25	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	子どもの経管栄養における留意点
26	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	経管栄養の感染予防策
27	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	経管栄養により生じる危険
28	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	急変・事故発生時の対応と再発防止
29	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養の必要物品
30	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養実施の観察ポイント
31	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養の実施
32	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養時に起こるトラブルと対応例
33	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養実施の報告
34	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養	喀痰吸引の実施手順 【演習】
35	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養	喀痰吸引の実施手順 【演習】
36	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養	経管栄養の実施手順 【演習】
37	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養	経管栄養の実施手順 【演習】
38	定期試験	

科目名	介護福祉ゼミ I			担当教員	熊谷・中嶋・岩上		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士、介護支援専門員、看護師として介護施設・事業所等に5年以上勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護福祉での大切な視点を伝える。						
□位置付け 読む書く聞く発表する学習を通して文章力や読解力、表現力を身につけ、わかりやすい正しい記録ができる。また自己学習の仕方を身につける。									
□授業の目的 文章の書き方、文章の読み取り方、発表の機会を通して表現の仕方、聞き方を学ぶ。正しい記録（記述、報告）の仕方を学ぶ。 自己学習の仕方を学ぶ。									
□授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> 文章力や読解力、表現力がつく。 わかりやすい正しい記録（記述、報告）ができるようになる。 自己学習の仕方を身につける。 									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				25	試験はありません。				
試験等	提出物			25	出席状況及び授業態度を重視します。提出物やレポートなどの課題については提出期限を厳守してください。				
	レポート			—	□学生へのメッセージ 自己学習の仕方を身につけ、自ら進んで勉強に取り組む習慣をつけましょう。 読む・書く・聞く・伝えることを個人であるいはグループで取り組みます。積極的に授業に参加してください。				
	随時試験			—					
	定期試験			25					
	平常の授業状況(授業態度)			25					
その他（ ）			—						
合計				100%					
□テキスト ・クエスチョン・バンク 介護福祉士 国家試験問題解説2022（メディックメディア）					□参考図書・資料・参考ホームページ 随時紹介します。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション1	読む、書く、発表することの意義
2	オリエンテーション2	〃
3	自己学習の仕方	ノートの作り方、課題（レポート等）の提出方法
4	専門用語の読み方、意義	専門用語の解説
5	発表	自己PRの発表
6	文章の読み方、書き方	構成を意識しながら文章を読み、読解力を養う
7	〃	〃
8	専門職としての伝え方	認知症利用者へのコミュニケーション方法
9	文章の読み方	国家試験問題文を読み解く
10	〃	〃
11	パソコンを使用した発表	PowerPoint (Microsoft) を使用した発表
12	〃	〃
13	〃	〃
14	文章の読み方、書き方	文章を読み、書き、発表する意義とは何か。
15	定期試験	レポート

介護福祉科 2年生

介護福祉科 2020年度生カリキュラム

科目区分		分野	コース・ 選択等	科目名	授業 形態	1年次		2年次		合計		介護 福祉士 受験資格
履修 方法	科目 内容					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	
登録 指定 科目	基礎 科目	人間 と 社会	人間 の 理解	人間の尊厳と自立	講義	2	30			2	30	○
				人間関係とコミュニケーション	講義	2	30			2	30	○
			社会 の 理解	社会の理解Ⅰ	講義	4	60			4	60	○
				社会の理解Ⅱ	講義			2	30	2	30	○
				日本文化論	講義	2	30			2	30	○
				現代社会論	講義	2	30			2	30	○
				リスクマネジメント	講義	2	30			2	30	○
	介護	介護の基本Ⅰ	講義	2	30			2	30	○		
		介護の基本Ⅱ	講義	4	60			4	60	○		
		介護の基本Ⅲ	講義			4	60	4	60	○		
		介護の基本Ⅳ	講義			2	30	2	30	○		
		コミュニケーション技術Ⅰ	講義	2	30			2	30	○		
		コミュニケーション技術Ⅱ	講義	2	30			2	30	○		
		生活支援技術Ⅰ	演習	2	30			2	30	○		
		生活支援技術Ⅱ	演習	6	90			6	90	○		
		生活支援技術Ⅲ	演習			4	60	4	60	○		
		生活支援技術Ⅳ	演習	2	30			2	30	○		
		生活支援技術Ⅴ	演習	2	30			2	30	○		
		生活支援技術Ⅵ	演習			4	60	4	60	○		
		介護過程Ⅰ	演習	4	60			4	60	○		
		介護過程Ⅱ	演習			4	60	4	60	○		
		介護過程Ⅲ	演習			2	30	2	30	○		
		介護総合演習Ⅰ	演習	4	60			4	60	○		
		介護総合演習Ⅱ	演習			4	60	4	60	○		
		介護実習Ⅰ	実習	3	90			3	90	○		
		介護実習Ⅱ	実習	5	150			5	150	○		
		介護実習Ⅲ	実習			6	180	6	180	○		
	介護実習Ⅳ	実習			1	30	1	30	○			
	こころ と からだ の しくみ	こころとからだのしくみⅠ	講義	4	60			4	60	○		
		こころとからだのしくみⅡ	講義			4	60	4	60	○		
		障害の理解	講義	4	60			4	60	○		
		発達と老化の理解Ⅰ	講義			2	30	2	30	○		
		発達と老化の理解Ⅱ	講義			2	30	2	30	○		
		認知症の理解	講義			4	60	4	60	○		
	医療 的 ケア	医療的ケアⅠ	講義	5	75			5	75	○		
		医療的ケアⅡ	演習			1	15	1	15	○		
科 関 連	介護福祉ゼミⅠ	演習	2	30			2	30				
	介護福祉ゼミⅡ	演習			2	30	2	30				
	介護福祉事務	講義			2	30	2	30				
合 計						67	1,125	50	855	117	1,980	

※介護福祉科の卒業には、修業年限以上在学し、介護福祉士の国家試験受験資格取得に必要な全教科の単位を修得し、かつ1700時間相当の単位数の修得が必要

科目名	社会の理解Ⅱ			担当教員		熊谷 崇		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として介護施設・事業所に5年以上勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護福祉で大切な視点を伝える。						
<input type="checkbox"/> 位置付け 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 個人が「自立した日常生活」を営むということを理解する。個人・家族・地域・社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。同時に我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1 自立支援のあり方や障害者総合支援制度の仕組みを理解し、介護福祉士として必要な知識を習得する。 2 権利擁護や成年後見制度等に関する仕組みを理解し、介護福祉士として必要な知識を習得する。 3 介護実践に関連する諸制度の基礎知識を理解し、介護福祉士として必要な知識を習得する。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法			評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント				
出席状況				40	<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ 基礎からゆっくり知識を積み重ねていきます。主体性をもって授業に参加してください。プリントを毎回配布しますので、厚めのファイルを用意してください。				
試験等	提出物			—					
	レポート			—					
	随時試験			30					
	定期試験			20					
	平常の授業状況 ()			10					
その他 ()			—						
合計				100%					
<input type="checkbox"/> テキスト					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解(中央法規) ミネルヴァ社会福祉六法2020 (ミネルヴァ書房)					随時紹介します。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	障害者福祉とは何か①	障害者福祉の変遷①
2	障害者福祉とは何か②	障害者福祉の変遷②
3	障害者総合支援制度とは何か①	障害者総合支援法の目的と理念
4	障害者総合支援制度とは何か②	障害者総合支援法のしくみ①
5	障害者総合支援制度とは何か③	障害者総合支援法のしくみ②
6	障害者総合支援制度とは何か④	障害者総合支援法のしくみ③
7	障害者福祉の動向①	障害者権利条約とは何か
8	障害者福祉の動向②	障害者差別解消法とは何か
9	公的扶助制度とは何か①	生活保護制度とは何か
10	公的扶助制度とは何か②	公的扶助制度の変遷
11	権利擁護とは何か①	日常生活自立支援事業とは何か
12	権利擁護とは何か②	苦情解決制度とは何か
13	権利擁護とは何か③	成年後見制度とは何か
14	権利擁護とは何か④	個人情報の保護に関する制度
15	定期試験	レポート

科目名	介護の基本Ⅲ			担当教員	武石・比嘉		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として介護保険施設・事業所に勤務。施設及び在宅介護での実務経験をもとに、介護福祉に必要な視点と方法について指導する。						
□位置付け ICFに基づいてアセスメントを理解し、個々の状態に応じた自立支援をするための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する。 介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護従事者の安全について理解する。									
□授業の目的 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解すると共に、「介護を必要とする人」を生活の視点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解する。									
□授業の到達目標 ・介護福祉士を取り巻く状況や背景を、わが国の介護の歴史を通して理解すると共に、現在の介護福祉士の担う社会的役割を理解する。 ・介護サービスの利用者の主体性や自立支援の重要性を理解する。 ・要介護者の自立の意味や自己決定、ICFの考え方、介護予防についての理解ができる。 ・ケアマネジメント及びケアプランの流れと仕組みを知る。 ・介護福祉士の倫理の必要性和、現場での生かし方を知る。 ・介護レクリエーション支援者としての知識と技術を身につける。									
□成績評価の方法				評価項目	割合	□成績評価に関するコメント			
出席状況					30	定期試験だけでなく、授業中のワークについても評価の対象になります。 □学生へのメッセージ 様々なリスクから利用者、自分を守るために必要な知識を身につけ、介護の現場で活躍できる人材になることを目指します。			
試験等	提出物				—				
	レポート				—				
	随時試験				—				
	定期試験				50				
	平常の授業状況(授業態度)				20				
その他()				—					
合計					100%				
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
・最新 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ (中央法規) ・レクリエーション介護士2級公式テキスト (BBC株式会社スマイル・プラスカンパニー)					一般社団法人日本アクティブコミュニティ協会 https://www.japan-ac.jp/				
□授業計画									
回数	テーマ			授業の内容、進め方					
1	介護レクリエーションの意義と役割			介護レクリエーションとレクリエーション介護士、意義と役割					
2	介護の基本的な知識			介護保険制度、介護スタッフ、介護事業者					
3	高齢者に対する現場での支援			高齢期の心と身体、支援のポイント、接し方の具体例					
4	レクリエーションの企画と計画			介護事業所でのレクリエーション、具体例、レクリエーションの企画・計画					
5	レクリエーションの企画と計画			レクリエーションの企画・計画					
6	レクリエーションの実行と見直し			コミュニケーション、アイスブレイク、ホスピタリティ、事後報告、アレンジ					
7	安全管理と実行の際の留意点			安全に対する配慮、振り返り					
8	認定試験			筆記試験60分・50問・6割以上で合格・公式テキスト持ち込み可。					
9	介護における安全の確保とリスクマネジメント			介護における安全の確保 セーフティマネジメントの考え方を理解する					
10	介護における安全の確保とリスクマネジメント			介護における安全の確保 利用者の尊厳保持と安全な暮らしとは何かを考える					
11	介護における安全の確保とリスクマネジメント			リスクマネジメントとは何か 尊厳ある暮らし継続のためのリスクマネジメントを理解する					
12	介護における安全の確保とリスクマネジメント			リスクマネジメントとは何か ルールや約束事を守ることの重要性を考える					
13	介護における安全の確保とリスクマネジメント			リスクマネジメントとは何か 福祉サービスに求められる安心、安全を学ぶ					
14	介護における安全の確保とリスクマネジメント			事故防止・予防のための対策について事例検討①【事例】を通して理解を深める					
15	定期試験								

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止、予防のための対策について事例検討②【事例】を通して理解を深める
17	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染症対策 介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識を学ぶ
18	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染症対策 生活の場、高齢者の特性と感染症対策を考える
19	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染症対策 感染予防の基礎知識を学ぶ
20	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染症対策 感染症発生時の対応と感染拡大防止の重要性を学ぶ
21	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染症対策 個別の感染症対策を学ぶ
22	介護従事者の安全	健康管理の意義と目的 働く人の健康や生活を守る法制度を学ぶ
23	介護従事者の安全	健康管理の意義と目的 介護労働者の特性と健康問題を考える
24	介護従事者の安全	こころの健康管理 ストレスとこころの健康関係について考える
25	介護従事者の安全	こころの健康管理 ストレスとこころの健康関係について学ぶ
26	介護従事者の安全	こころの健康管理 こころの病気を理解する。 職場で取り組むこころの健康管理を考える
27	介護従事者の安全	身体の健康管理 健康障害の要因と予防策を学ぶ
28	介護従事者の安全	労働環境の整備 労働環境の重要性を学ぶ
29	リスクマネジメントとは	まとめ 介護におけるリスク対策を振り返る（小テスト）
30	定期試験	

科目名	介護の基本Ⅳ			担当教員	信川 京子		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	大学院終了後、介護福祉士として高齢者施設で3年、社会福祉士として同施設介護普及課・研修センターで4年勤務。現在は神奈川県介護福祉士会に所属し、福祉サービス第三者評価委員、初任者研修・実務者研修、介護福祉士国家試験対策講座の講師なども務めている。自身の経験を基に分かりやすく講義する。併せて、国家試験対策も行っていきたい。						
<input type="checkbox"/> 位置付け 介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、多職種連携の意義を理解する。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 介護を必要とする人の生活の個性に対応するために、生活の多様性や社会とのかかわりを理解できるようにする。また、介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解できるようにする。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 ① 私たちの生活は「時間・空間・生活リズム」が相互に関連し構成されていることを理解する。 ② 私たちの生活を構成する要素・特性について理解する。 ③ 介護福祉を必要とする人たちのその人らしさや生活の多様性についてを理解する。 ④ 生活を支えるフォーマルサービス・インフォーマルサービスの特徴を理解する。 ⑤ 地域福祉の目的、意義、団体、にない手について学ぶ。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法を									
評価項目		割合		<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント					
出席状況		10		成績評価は、出欠・遅刻・早退状況(10点)、レポート・提出物等(20点)、授業への積極的参加《グループ活動、質問、発表》(10点)、定期試験(60点)、総合的に判断します。 <input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・授業の最後に、授業内容の確認を行います。 ・グループワークは「前向きな討論や議論」を希望します。 ・新聞から授業に関連がある内容を探し発表していただきます。					
試験等	提出物	—							
	レポート・小テスト	20							
	随時試験	—							
	定期試験	60							
	平常の授業状況 ()	10							
その他 ()	—								
合計		100%							
<input type="checkbox"/> テキスト 最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ (中央法規)				<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ ① 厚生労働省ホームページ ② 内閣府：高齢社会白書 令和2年度版 ③ 見て覚える介護福祉士国試ナビ (中央法規)					

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	自己紹介、授業内容・評価などを説明する。
2	私たちの生活の理解	生活とは何かを理解する。
3		生活にとって大事な要素・特性について理解する。
4	介護福祉を必要とする人たちの暮らし	介護福祉を必要とする人の「暮らし」の多様性を理解する。
5		介護を必要とする高齢者の暮らし、事例を学ぶ。
6		介護を必要とする障害者の暮らしの事例を学ぶ。 演習1-2
7	「その人らしさ」と「生活のニーズ」の理解	その人らしさや多様性について理解する。
8		生活のしづらやその視点について理解する。
9		「生活のしづら」「家族介護者」に対する理解と支援を理解する。
11	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	生活を支えるフォーマルサービスについて理解する。
12		生活を支えるインフォーマルサービスについて理解する。
13		地域連携の意義と目的、組織・団体・担い手について学ぶ。
14	予備日、まとめ	試験対策
15	試験	

科目名	生活支援技術Ⅲ			担当教員	熊谷・中嶋・武石		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前・後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として介護施設・事業所に5年以上勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護福祉で大切な視点を伝える。						
□位置付け あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。									
□授業の目的 <ul style="list-style-type: none"> 介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。 リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。 									
□授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。 介護実践の根拠を理解する。 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者一人ひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。 									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				10	出席状況、レポート、定期試験、授業態度、実技試験が評価対象になります。 □学生へのメッセージ 身だしなみ等を整えてください。整っていない場合は見学になることがあります。				
試験等	提出物			—					
	レポート			5					
	随時試験			—					
	定期試験			40					
	平常の授業状況(授業態度)			5					
その他(実技試験)			40						
合計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ (中央法規)					担当教員により随時ご紹介いたします。				
最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ (中央法規)									

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	身じたくの介護①	着衣・脱衣における生活支援技術①
2	身じたくの介護②	着衣・脱衣における生活支援技術②
3	身じたくの介護③	着衣・脱衣における生活支援技術③
4	身じたくの介護④	着衣・脱衣における生活支援技術④
5	移動の介護①	杖歩行の介護①
6	移動の介護②	杖歩行の介護②
7	移動の介護①	安楽な体位の保持 褥瘡の予防①
8	移動の介護②	安楽な体位の保持 褥瘡の予防②
9	移動の介護③	安楽な体位の保持 褥瘡の予防③
10	入浴・清潔保持の介護①	足浴
11	入浴・清潔保持の介護②	足浴
12	中間総括	前半の振り返り
13	実技試験	実技試験
14	入浴・清潔保持の介護③	清拭(全身清拭、部分清拭)
15	入浴・清潔保持の介護④	口腔ケア

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	睡眠の介護①	自立を支援する睡眠の介護とは 睡眠におけるアセスメント
17	睡眠の介護②	快適な睡眠のための環境整備
18	終末期の介護①	終末期・終末期ケアとは何か
19	終末期の介護②	終末期における多職種連携・役割と協働
20	定期試験	筆記試験
21	総合学習①	事例に基づいた生活支援技術①
22	総合学習②	事例に基づいた生活支援技術②
23	排泄の介護①	最新の排泄ケア用品への理解①
24	排泄の介護②	最新の排泄ケア用品への理解②
25	ICTを活用した介護①	ICTを活用した介護への理解①
26	ICTを活用した介護②	ICTを活用した介護への理解②
27	実技試験①	生活支援技術の振り返り（アセスメント）
28	実技試験②	生活支援技術の振り返り（アセスメント）
29	実技試験③	生活支援技術の振り返り（実施）
30	実技試験④	生活支援技術の振り返り（評価）

科目名	生活支援技術VI			担当教員	松田 朗		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前・後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、PSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
□位置付け 介護を必要とする人の個別性を重視し、疾病や障害のもつ特性を理解し、利用者の状態・状況に応じた知識と技術を習得する。									
□授業の目的 <ul style="list-style-type: none"> 対象者や場所など多様な介護場面に汎用可能な基本的な介護の知識と技術を修得する。 想定できる介護場面において、自立支援の観点から介護サービスを実践できる基盤となる能力を修得する。 想定できる介護場面において、安全に配慮した介護サービスを実践できる基盤となる能力を修得する。 多職種連携の際の介護福祉士の役割への理解を深める。 									
□授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> 介護を必要とする人の個別性を重視し、想定できる介護場面に共通する基礎的な知識と技術を、根拠に基づいて説明できる。 介護を必要とする人の現状(心身・環境)を適切に把握し、「していること・できること」を活かした支援を計画できる。 多職種連係に役立つ十分な観察の視点を説明できる。 									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況					・毎回の授業で振り返りレポートを作成していただきます。このレポートには出席状況点が含まれます。 ・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。 □学生へのメッセージ 思考も行動も柔軟に。感性を磨き、遊び心を大切にしましょう。				
試験等	提出物		—						
	レポート		50						
	随時試験		—						
	定期試験		50						
	平常の授業状況(授業態度)								
その他 ()				—					
合計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ (中央法規)					□参考図書・資料・参考ホームページ 授業の中でご紹介していきます。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリ/知的障害に応じた介護	授業内容・進め方・成績評価等説明いたします。/障害に対する偏見と配慮
2	発達障害に応じた介護	事例に基づいて、生活上の困難を具体的にイメージしていきます。
3	肢体不自由に応じた介護①	生活上の困りごとを具体的にイメージでき、適切な判断のもと対象者に適った手技等を選択し提供できるように技術を学びます。
4	肢体不自由に応じた介護②	
5	視覚障害に応じた介護①	視覚に障害を持った状態での生活を擬似体験し、その体験から生活上の困りごとを具体的にイメージし、適切な支援を創っていく技術を学びます。
6	視覚障害に応じた介護②	
7	聴覚言語障害に応じた介護①	コミュニケーション障害に焦点を当て、対象者に応じた具体的な支援技術を選択できるための基本知識と、いくつかの代表的な技術を学びます。
8	聴覚言語障害に応じた介護②	
9	重複障害に応じた介護①	事例に基づいて、具体的な支援技術への理解を深めます。
10	重複障害に応じた介護②	
11	重症心身障害に応じた介護①	事例等に基づいて生活上の困りごとを確かめ、支援の際の留意事項などから障害の特性への理解を深めます。
12	重症心身障害に応じた介護②	
13	居宅介護	居宅介護の現状と現場に入る際の心構えと態度をお伝えいたします。
14	居宅介護	
15	まとめのテスト	前期のまとめ(知識の確認)テスト

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	精神障害に応じた介護①	精神障害をお持ちの方としっかり向き合えるための心構えを学びます。統合失調症・気分障害・適応障害・抑うつ神経症・依存症などの障害特性を踏まえた支援方法を学びます。
17	精神障害に応じた介護②	
18	精神障害に応じた介護③	
19	精神障害に応じた介護④	
20	ALSに応じた介護①	難病を抱えながらの生活への理解を深め、症状・心理・環境などに応じた生活支援技術が提供できるように、基本的な手技などを学びます。
21	ALSに応じた介護②	
22	ALSに応じた介護③	
23	ALSに応じた介護④	
24	パーキンソン病に応じた介護①	難病を抱えながらの生活への理解を深め、症状・心理・環境などに応じた生活支援技術が提供できるように、基本的な手技などを学びます。
25	パーキンソン病に応じた介護②	
26	悪性関節リウマチに応じた介護①	難病を抱えながらの生活への理解を深め、症状・心理・環境などに応じた生活支援技術が提供できるように、基本的な手技などを学びます。
27	悪性関節リウマチに応じた介護②	
28	筋ジストロフィーに応じた介護①	難病を抱えながらの生活への理解を深め、症状・心理・環境などに応じた生活支援技術が提供できるように、基本的な手技などを学びます。
29	筋ジストロフィーに応じた介護②	
30	まとめのテスト	後期のまとめ（知識の確認）テスト

科目名	介護過程Ⅱ			担当教員	中嶋・岩上		単位数	4																																												
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	○																																											
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前・後期	卒業要件	○																																											
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士及び介護支援専門員、看護師として介護施設・事業所に20年以上勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護実践で大切な根拠ある介護方法についての思考過程の展開について講義する。																																																	
□位置付け 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。																																																				
□授業の目的 利用者理解を図りながら、必要な情報収集を行い、その情報の分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画し、実施・評価する一連の過程であり、介護過程の理論と実習体験を関連付けながら介護過程を展開する能力の育成を目指す。																																																				
□授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開について具体的な実施の事例を通して理解する。 ・介護過程による介護計画とケアマネジメントの違いを知る。 ・ICFの概念を取り入れ、利用者の潜在能力を引き出し活用・発揮することの意義について理解できる。 ・自立度や生活の場に応じた介護・医療・保健との連携協働を要とする介護、終末期における介護の展開など、様々な利用者の状況に応じた介護過程の展開を理解できる 																																																				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">□成績評価の方法</td> <td>評価項目</td> <td>割合</td> <td colspan="6">□成績評価に関するコメント</td> </tr> <tr> <td colspan="2">出席状況</td> <td></td> <td>30</td> <td colspan="6" rowspan="7"> 出席状況、提出物、定期試験、授業態度すべて評価に含まれます。特に提出物については、提出期限を厳守してください。評価の詳細は、初回の授業にて説明します。 □学生へのメッセージ ・授業に出席することが前提です。やむを得ず欠席した場合には次の授業までに必ず、担当教員に確認してください。 ・介護実習では介護過程を展開するので、これまで学んだ知識が総合的に必要になります。 </td> </tr> <tr> <td rowspan="5">試験等</td> <td>提出物</td> <td></td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>随時試験</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>平常の授業状況 ()</td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>その他 ()</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> </table>										□成績評価の方法		評価項目	割合	□成績評価に関するコメント						出席状況			30	出席状況、提出物、定期試験、授業態度すべて評価に含まれます。特に提出物については、提出期限を厳守してください。評価の詳細は、初回の授業にて説明します。 □学生へのメッセージ ・授業に出席することが前提です。やむを得ず欠席した場合には次の授業までに必ず、担当教員に確認してください。 ・介護実習では介護過程を展開するので、これまで学んだ知識が総合的に必要になります。						試験等	提出物		40	レポート		20	随時試験		—	定期試験		—	平常の授業状況 ()		10	その他 ()		—	合計			100%
□成績評価の方法		評価項目	割合	□成績評価に関するコメント																																																
出席状況			30	出席状況、提出物、定期試験、授業態度すべて評価に含まれます。特に提出物については、提出期限を厳守してください。評価の詳細は、初回の授業にて説明します。 □学生へのメッセージ ・授業に出席することが前提です。やむを得ず欠席した場合には次の授業までに必ず、担当教員に確認してください。 ・介護実習では介護過程を展開するので、これまで学んだ知識が総合的に必要になります。																																																
試験等	提出物		40																																																	
	レポート		20																																																	
	随時試験		—																																																	
	定期試験		—																																																	
	平常の授業状況 ()		10																																																	
その他 ()		—																																																		
合計			100%																																																	
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座9 介護過程 (中央法規)					□参考図書・資料・参考ホームページ 担当教員により随時ご紹介いたします。																																															

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護過程の理解	介護過程の全体像
2	〃	アセスメント (課題の解釈・関連づけ・統合化)
3	〃	アセスメント (課題の明確化)
4	介護過程の実践的展開	アセスメントの実際 (介護実習Ⅱでの事例を用いた情報収集)
5	〃	アセスメントの実際 (課題の解釈・関連づけ・統合化)
6	〃	アセスメントの実際 (課題の明確化)
7	介護過程の理解	介護計画の立案について計画とは・目標の立て方・計画)
8	〃	介護計画の立案について計画とは・目標の立て方・計画)
9	〃	介護過程の立案について (実施・評価・再アセスメント)
10	介護過程の実践的展開	介護計画の展開 (計画の立案)
11	〃	介護過程の展開 (計画の立案)
12	〃	介護過程の展開 (実施・評価)
13	〃	介護過程の展開 (実施・評価)
14	〃	介護過程の展開 (事例を通してレポート作成)
15	まとめ	介護実習Ⅲに向けて

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	実習の振り返り（インシデント・アクシデントチェック）
17	〃	ケーススタディ（介護実習Ⅲ介護過程の事例を活用）整理①
18	〃	〃（ 〃 ）整理②
19	〃	〃（ 〃 ）グループワーク①事例紹介
20	〃	〃（ 〃 ）〃 ②事例紹介
21	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク① 事例作成
22	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク② 事例作成
23	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク③ 事例作成
24	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク④ 事例作成
25	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク⑤事例まとめ
26	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク⑥事例まとめ
27	〃	ケーススタディ①（リハーサル）
28	ケーススタディ	ケーススタディ②（リハーサル）
29	〃	ケーススタディ③（発表会）
30	〃	ケーススタディ④（発表会）

科目名	介護過程Ⅲ			担当教員	水沢 吉伸		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士及び介護支援専門員として介護施設等で30年以上勤務。実務経験をもとに授業を行う。						
<input type="checkbox"/> 位置付け 介護保険制度において、介護支援専門員による適切な介護サービスの在り方を習得する。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 介護支援専門員に必要なスキルを学ぶ ①介護保険の目的を理解する ②介護保険のしくみを理解する ③ケアマネジメントのプロセスを理解する ④地域における社会資源を知る									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 ケアマネジメントのプロセスを理解し、利用者の課題解決に向けた具体的な援助を導き出すプランをイメージできるようになる									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法			評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント				
出席状況				10	授業に出席すること、授業における姿勢、大事にします。 <input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ 自ら、主体的に授業に参加して下さい				
試験等	提出物			10					
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			70					
	平常の授業状況 ()			10					
その他 ()			—						
合計				100%					
<input type="checkbox"/> テキスト 随時、プリントを配付します					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護保険制度の理念・目的①	介護保険創設の背景と理念について理解する
2	介護保険制度の理念・目的②	介護保険制度の理念を考え、全体で共有する
3	介護サービスの利用のしかた①	介護サービスを利用するまでの手続の流れを理解する
4	介護サービスの利用のしかた②	地域包括支援センターを理解する
5	介護保険サービスと介護報酬①	サービス内容、介護報酬を理解し、サービスの期待できる効果を考える
6	介護保険サービスと介護報酬②	サービス内容、介護報酬を理解し、サービスの期待できる効果を考える
7	介護保険外の公的サービス	それぞれの市区町村独自のサービスを理解する
8	社会資源の開発	インフォーマルなサービスについて考える
9	相談援助技術について	ケアマネジメントにおける相談面接を理解する
10	ケアマネジメント	ケアマネジメントのプロセスを理解する
11	アセスメントについて	情報収集・ニーズの抽出・目標設定について理解する
12	ケアプランの作成①	グループワークで、実際にケアプランを作成する
13	ケアプランの作成②	事例を通じて、実際にケアプランを作成する
14	ケアプランの作成③	事例を通じて、実際にケアプランを作成する
15	定期試験	試験

科目名	介護総合演習Ⅱ			担当教員		熊谷・中嶋		単位数	4
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前・後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士及び介護支援専門員として介護保険施設・事業所に5年以上勤務。施設及び在宅介護での実務経験をもとに介護福祉での大切な視点を伝える。						
□位置付け 介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。質の高い介護実践やエビデンスの構築に繋がる実践研究の意義とその方法を理解する。									
□授業の目的 <ul style="list-style-type: none"> 介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。 									
□授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> 介護実習の重要性について理解できる。 介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備ができる。 介護実習を通じて学校内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ实际的に理解できるようになる。 習得した学内諸学習を応用し、実践的な技術等を身につけられる。 介護福祉士としての自覚ができ、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合的対応力を取得できる。 									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				50	定期試験としての筆記や実技の試験はありませんが、出席状況、提出物で評価されます。提出物等は担当教員からの説明をよく聞き指示に従ってください。 □学生へのメッセージ 介護総合演習は介護実習が充実した意義のあるものにするための授業です。				
試験等	提出物			30					
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			20					
	平常の授業状況(授業態度)			—					
その他()			—						
合計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
<ul style="list-style-type: none"> 最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習(中央法規) 介護実習の手引き 					担当教員より随時ご紹介いたします。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション①	介護実習Ⅲ・Ⅳの目的・意義
2	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション②	介護実習Ⅲ・Ⅳに関連した事前学習
3	障害者総合支援とは何か①	障害者福祉における地域移行の実際①
4	障害者総合支援とは何か②	障害者福祉における地域移行の実際②
5	地域包括ケアシステムとは何か①	地域包括ケアシステムの概要
6	地域包括ケアシステムとは何か②	地域包括ケアシステムの実際
7	介護実習Ⅳオリエンテーション①	在宅介護の概要
8	介護実習Ⅳオリエンテーション②	在宅介護の実際
9	介護実習Ⅳオリエンテーション③	在宅介護の実際
10	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション③	介護実習Ⅲ・Ⅳの目標と個人目標
11	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション④	介護実習Ⅲ・Ⅳの心構え・取り組み方①
12	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション⑤	介護実習Ⅲ・Ⅳの心構え・取り組み方②
13	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション⑥	実習巡回教員による個別指導
14	介護実習Ⅲ 帰校日①	実習巡回教員による個別指導
15	介護実習Ⅲ 帰校日②	実習巡回教員による個別指導

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	介護実習Ⅲ 帰校日③	実習巡回教員による個別指導
17	介護実習Ⅲ 帰校日④	実習巡回教員による個別指導
18	定期試験	レポート
19	介護実習Ⅲ・Ⅳの振り返り①	介護実習Ⅲ・Ⅳで得た学びの共有①
20	介護実習Ⅲ・Ⅳの振り返り②	介護実習Ⅲ・Ⅳで得た学びの共有②
21	介護実習Ⅲ・Ⅳの振り返り③	介護実習Ⅲ・Ⅳの自己評価
22	介護の実践の科学的探究①	実践事例とエビデンスの検討①
23	介護の実践の科学的探究②	実践事例とエビデンスの検討②
24	介護の実践の科学的探究③	実践事例とエビデンスの検討③
25	介護の実践の科学的探究④	実践事例とエビデンスの検討④
26	特別講義	自立した日常生活とは何か①
27	特別講義	自立した日常生活とは何か②
28	特別講義	今後の介護福祉の展望①
29	特別講義	今後の介護福祉の展望②
30	「求められる介護福祉士像」とは何か	資格取得時の到達目標に対する自己評価

科目名	介護実習Ⅲ			担当教員		岩上・熊谷・中嶋	単位数	6	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師、介護福祉士、介護支援専門員として介護施設・事業所等に5年以上勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護福祉での大切な視点を伝える。						

□位置付け

地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

□授業の目的

実習は、介護の実践を学ぶ場であり、専門職業人としての自己形成の場でもある。介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や、領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなど、これまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。

□授業の到達目標

- ・受容、共感的態度を基盤に、利用者との個別的なかかわりを深める。
- ・利用者の全体像をとらえ、個別の介護ニーズを把握できる。
- ・利用者に適した介護方法を考え、適切な介護を実践できる。実施した介護方法を考察し、評価できる。
- ・1人の利用者の全体像をとらえ、介護過程をより深めて展開できる。研究的態度を養う。
- ・施設サービス全般ならびに社会的役割を認識できる。地域社会における施設の役割を理解できる。
- ・介護職ならびに関係職種と連携、協働できる。介護過程の展開を通し、チームワークの具体的あり方を学ぶ。

□成績評価の方法		評価項目	割合	□成績評価に関するコメント ・介護実習の継続が困難と認められる場合、実習を中止し、単位認定をしない場合があります。 ・その他、習得すべき内容が伴わない場合は、単位認定をしない場合があります。 □学生へのメッセージ 介護実習は利用者、実習施設、指導者等の協力があって成立します。ルールを守り、欠席しないよう調整してください。実習期間中は巡回担当教員が定期的に指導を行います。何でも遠慮なく相談してください。
出席状況			60	
試験等	提出物		—	
	レポート		—	
	随時試験		—	
	定期試験		—	
	平常の授業状況（実習の状況）		40	
その他（ ）			—	
合計			100%	

□テキスト ・最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（中央法規） ・介護実習の手引き	□参考図書・資料・参考ホームページ
---	--------------------------

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
	介護実習Ⅲ (23日間)	オリエンテーション（実習前もしくは実習初日に実施される） コミュニケーション 生活支援技術（身じたくの介護） 〃（移動の介護） 〃（食事の介護） 〃（入浴・清潔保持の介護） 〃（排泄の介護） 〃（睡眠の介護） 〃（看取りの介護） レクリエーション 介護過程の展開（1人の利用者の全体像をとらえ、ニーズを把握する。利用者に適した介護方法を考え実践する。実践した介護方法を考察し、評価する） ※上記の項目は実習内容である。ただし、実習先のスケジュールに従い内容は変更されることがある。 24時間の利用者の生活状況を把握するため、実習は日中の時間帯だけでなく早番・遅番・夜勤などの変則勤務（実習）を体験することがある。

科目名	介護実習Ⅳ			担当教員	岩上・熊谷・中嶋		単位数	1	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師、介護福祉士、介護支援専門員として介護施設・事業所等に5年以上勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護福祉での大切な視点を伝える。						
□位置付け 対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解する。									
□授業の目的 実習は、介護の実践を学ぶ場であり、専門職業人としての自己形成の場でもある。介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や、領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなど、これまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。									
□授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族との接し方を学ぶ。 ・利用者及び家族の生活状況を理解するとともに、ニーズを知る。 ・在宅福祉サービスの実際に参加し、状況に合った支援方法について知る。 ・自分の学びを整理し記録できる。 ・在宅福祉サービス内容及び社会資源を理解できる。 ・介護サービス計画を通して、チームワークや他の関係機関との連携のあり方を具体的に学ぶ。 ・介護福祉士として守るべき倫理と態度を身につける。 ・実習を振り返り、生活支援者としての自己を客観視できる。 ・介護福祉士としての介護者観を明確にできる。 									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				60	・介護実習の継続が困難と認められる場合、実習を中止し、単位認定をしない場合があります。 ・その他、習得すべき内容が伴わない場合は、単位認定をしない場合があります。 □学生へのメッセージ 介護実習は利用者、実習施設、指導者等の協力があって成立します。ルールを守り、欠席しないよう調整してください。				
試験等	提出物		—						
	レポート		—						
	随時試験		—						
	定期試験		—						
	平常の授業状況（実習の状況）		40						
その他（ ）				—					
合計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
・最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（中央法規） ・介護実習の手引き									

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護実習Ⅳ	訪問介護員に同行し、利用者宅を訪問して実習する。
2	(4日間)	〃
3		〃
4	↓	〃

科目名	こころとからだのしくみⅡ			担当教員	飯田 美里		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として、がん専門病院（消化器、呼吸器、乳腺、整形外科病棟、術後回復室等）に7年、訪問看護7年、放課後等デイサービス（重症心身障がい児のケア）3年勤務。介護に必要なこころとからだのしくみについて指導する。						
□位置付け 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。									
□授業の目的 この科目では、心と体の両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。また、残存能力・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出す。									
□授業の到達目標 1. 移動、食事、入浴・清潔保持、休息・睡眠に関連した心と体のしくみについて理解する。 2. 移動、食事、入浴・清潔保持、休息・睡眠に関連した心と体の変化について理解し、利用者の状態の変化に気づくことができるようになる。また、医療職との連携について理解する。 3. 人生の最終段階のケアに関連した心と体のしくみについて学び、終末期の利用者及び家族への支援について理解を深める。									
□成績評価の方法				評価項目	割合	□成績評価に関するコメント			
出席状況					—	□学生へのメッセージ ・専門用語やわからない言葉は調べておきましょう。 ・授業中はノートを取る習慣をつけましょう。 ・グループワークでは自分の意見をしっかりと述べ、積極的に取り組みましょう。			
試験等	提出物				—				
	レポート				—				
	随時試験				—				
	定期試験				90				
	平常の授業状況（授業態度）				10				
その他（ ）				—					
合計					100%				
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ（中央法規）					適宜紹介します。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	移動に関連したしくみ	移動のしくみ
2		〃
3		心身の機能低下が移動に及ぼす影響
4		〃
5		移動における観察のポイントと対応 医療職との連携
6	食事に関連したしくみ	食事のしくみ
7		〃
8		心身の機能低下が食事に及ぼす影響
9		〃
10		食事における観察のポイントと対応 医療職との連携
11	入浴・清潔保持に関連したしくみ	入浴・清潔保持のしくみ
12		〃
13		心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響
14		〃
15	定期試験	筆記試験

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	入浴・清潔保持に関連したしくみ	入浴・清潔保持における観察のポイントと対応 医療職との連携
17	休息・睡眠に関連したしくみ	休息・睡眠のしくみ
18		〃
19		心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響
20		〃
21		休息・睡眠における観察のポイントと対応 医療職との連携
22	人生の最終段階のケアに関連したしくみ	「死」のとらえ方
23		終末期のケアのポイント
24		「死」に対するこころの理解
25		終末期から臨終期における身体機能の変化 死後のからだの変化
26		在宅での看取りの準備 家族への援助
27		終末期における医療職との連携 多職種連携
28		在宅での看取りについて考える
29	まとめ	総復習
30	定期試験	筆記試験

科目名	発達と老化の理解 I			担当教員	岩上 由紀子		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として医療機関・保育園・訪問看護事業所に28年勤務。病院や在宅看護等での実務経験をもとに介護福祉で大切な視点を伝える。						
<input type="checkbox"/> 位置付け 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多く見られる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的な知識を学ぶ。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 老化に伴うからだの変化を理解し、高齢者に多い症状や疾病の特徴を知る。 老化に伴う機能低下が高齢者の生活に影響することを学び、生活支援技術の根拠となる知識の習得を図る。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント					
出席状況			—	<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ 専門用語が多い授業です。 わからない語句は、『こころとからだのしくみ』のテキストなどを活用し、調べる習慣をつけましょう。					
試験等	提出物		—						
	レポート		15						
	随時試験		—						
	定期試験		85						
	平常の授業状況 ()		—						
その他 ()			—						
合計			100%						
<input type="checkbox"/> テキスト				<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ					
最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 (中央法規出版)									

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	老化にともなう身体的な変化と生活への影響	加齢による生理機能の全体的低下 身体的機能の低下と日常生活への影響
2	老化にともなう心理的な変化と生活への影響	認知機能の変化・知的機能の変化と心理的影響・パーソナリティの変化・老化と動機づけ
3	老化にともなう身体的な変化と生活への影響	呼吸器の機能の変化・筋、骨、関節の機能の変化、泌尿器・生殖機能の変化、体温維持機能の変化
4	老化にともなう社会的な変化と生活への影響	社会のなかでの生活上の課題・高齢者の社会的活動の現状と課題・社会における老化理論・
5	高齢者と健康	高齢者の健康・平均寿命と健康寿命・疾病構造の変化・健康日本21
6	高齢者と健康	サクセスフルエイジング・プロダクティブエイジング・アクティブエイジング
7	高齢者の症状・疾患の特徴	慢性的に経過しやすい・複数の疾患をもつ・非定型的な症状
8	高齢者の症状・疾患の特徴	痛みを感じにくい・閉じこもり・廃用症候群・老年症候群
9	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨格系・筋系、脳・神経系、皮膚・感覚系
10	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	循環器系、呼吸器系、消化器系
11	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	腎・泌尿器系、内分泌・代謝系
12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	歯・口腔疾患、悪性新生物(がん)、感染症、精神疾患、その他
13	保健医療職との連携	多職種との連携・事例による演習
14	保健医療職との連携	職種との連携・事例による演習
15	定期試験	筆記試験

科目名	発達と老化の理解Ⅱ			担当教員	松田 朗		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、PSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
□位置付け 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。									
□授業の目的 ①人間の成長と発達に関する基礎的な知識を習得する。 ②人間の発達課題が生活に及ぼす心理的な影響や行動の特徴などを踏まえ、対象者の言動（感情）を肯定的に受け止めることができる ③自己理解を深める。									
□授業の到達目標 ①青年期の危機、中年期の危機、老年期の危機について説明できる。 ②発達課題が生活にどのような影響を及ぼすかを理解し、エビデンスとナラティブを拠り所とした適切な支援計画の立案と実践に活かすことができる。（肯定的な側面にフォーカスできる） ③自分自身と向き合い、自分の行動や思考の特徴を分析できる。									
□成績評価の方法				評価項目	割合	□成績評価に関するコメント			
出席状況					—	・毎回の授業で振り返りレポートを作成していただきます。このレポートには出席状況点が含まれます。 ・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。 □学生へのメッセージ ・思考も行動も柔軟に。感性を磨き、遊び心を大切にしましょう。 ・学びを一緒に楽しみましょう。 ・メアド matsuda.akira@wasedasokki.jp			
試験等	提出物		—						
	レポート		50						
	随時試験		—						
	定期試験		50						
	平常の授業状況（ ）		—						
その他（ ）		—							
合計					100%				
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 （中央法規出版）					「よくわかる臨床発達心理学(第4版)」ミネルヴァ書房 「心理学理論と心理的支援(第2版)」ミネルヴァ書房				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション/成長・発達の考え方	授業内容・レポートの書き方・評価基準と方法の説明/授業への導入
2	成長・発達の原則・法則/成長・発達に影響する要因	影響因子を支援の際にどの様に活かす（留意する）のかを学びます。
3	成長・発達に影響する要因/発達理論	いくつかの理論を学び、それらの支援への活かし方を学びます。
4	発達理論/発達段階と発達課題①	ペアワークとグループワークを通して、環境との相互作用における心身の変化を具体的な生活場面を想定しながら時系列で学び、さらに支援計画にどの様に活かしていくかを学びます。
5	発達段階と発達課題②/発達段階と発達課題③	
6	発達段階と発達課題④/身体的機能の成長と発達	
7	身体的機能の成長と発達/心理的機能の発達①	身体の成長・発達を学生自身の成長・発達に照らし合わせて学びます。
8	心理的機能の発達②/心理的機能の発達③	心の成長・発達を具体的な事例を交えて学び、人への理解を深めます。
9	社会的機能の発達①/ 社会的機能の発達②	人間関係の形成やチームの形成を念頭に発達との関係性を学びます。
10	社会的機能の発達③/老年期の定義	ペアワークとグループワークを通して、高齢者に焦点を当てて心と身体の機能的な変化と発達との関係性を、生活場面を想定しながら学び、さらに支援計画にどの様に活かしていくかを学びます。
11	老化とは/老年期の発達課題①	
12	老年期の発達課題②/老年期の発達課題③	
13	老年期をめぐる今日的課題①	住み慣れた町の、住み慣れた家で、馴染みの人たちと、活き活きと、楽しく暮らし続けるための支援を学びます。
14	老年期をめぐる今日的課題②	
15	定期試験	筆記試験

科目名	認知症の理解			担当教員	大川 直人		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前・後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として、介護事業所で15年以上勤務。現場では、生活相談員、介護支援専門員、管理者、施設長などを歴任し、現在は、法人本部にて、法人経営に係る企画、立案を統括する立場として勤務している。 認知症の方の理解を事例や視覚教材を使用して分かりやすく伝える。						
□位置付け 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するため基礎的知識を習得する。									
□授業の目的 授業の大きな目的は、「その人と向き合うこととはどのようなことか」ということを認知症の方の事例やDVDなどを見ながら、一緒に考えて行きましょう。在宅介護、施設介護を問わず、介護福祉士が活躍する場面で認知症のある人を支援する機会がたくさん生じます。その時、介護福祉士として求められる専門性を発揮し、適切な対応ができなければなりません。講義では、主に知識を得ることによって、認知症に関する専門性の基礎を構築しましょう。授業では講義の他、グループワークやワークショップ形式を活用して、様々な「気づき」を得るようにしましょう。									
□授業の到達目標 認知症を十分理解し、適切な観察と洞察力を身につけ、対象者（利用者）の思いに沿った介護が実践できるようになりましょう。 また、入職した後も、授業で学んだことと実際の現場で感じるであろう、ギャップや疑問についても、そのようなときに、どのようにして乗り越えていくかも学ぶようにしましょう。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				20	講義の内容から、知識の習熟度の効果測定を行います。その際、提出物やレポートを求める場合があります。 また、グループワークへの参加態度や意見の内容についても評価していきます。 主体的に真剣に取り組みましょう。 □学生へのメッセージ 主体性を持って講義に参加してください。講義中は質問をして皆さんの意見や感想を求めます。				
試験等	提出物			10					
	レポート			10					
	随時試験			—					
	定期試験			30					
	平常の授業状況（ ）			30					
その他（ ）			—						
合計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 (中央法規出版)					□参考図書・資料・参考ホームページ 現場でも、よく使われるリーフレットなどは、逐次コピーなどしてお渡しいたします。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	認知症とは何か	講義と演習
2	〃	
3	脳の仕組み	講義と演習
4	〃	
5	認知症の人の心理	講義と演習
6	〃	
7	中核症状の理解	講義と演習
8	〃	
9	生活障害の理解	講義と演習
10	〃	
11	BPSDの理解	講義と演習
12	認知症の診断と重症度	講義と演習
13	認知症の原因疾患と症状・生活障害	講義と演習
14	〃	
15	認知症の治療薬	講義と演習

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	認知症の予防	講義と演習
17	認知症を取り巻く状況	講義と演習
18	〃	
19	認知症ケアの理念と視点	講義と演習
20	〃	
21	認知症当事者の視点からみえるもの	講義と演習
22	〃	
23	認知症ケアの実際	講義と演習
24	〃	
25	環境づくり	講義と演習
26	介護者支援	講義と演習
27	認知症の人の地域生活支援	講義と演習
28	まとめ	講義
29	定期試験	筆記試験
30	定期試験	筆記試験

科目名	医療的ケアⅡ			担当教員	岩上・飯田		単位数	1	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	事業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として医療機関・保育園・訪問看護事業所に28年勤務。病院や在宅看護等での実務経験をもとに介護福祉で大切な視点を伝える。						
□位置付け 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。									
□授業の目的 1 医療的ケア実施の基礎を学ぶ。 2 喀痰吸引の基礎的知識と実施手順を理解し実施できる。 3 経管栄養の基礎的知識と実施手順を理解し実施できる。									
□授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引に必要な物品が準備でき、適切安全に実施できる。 ・実施後の利用者の状態を観察し、報告ができる。 ・経管栄養に必要な物品が準備でき、適切安全に実施できる。 ・実施後の利用者の状態を観察し、報告ができる。 ・心肺蘇生の必要性が判断でき、実施できる。 ・AEDの基本操作ができる。 									
□成績評価の方法				評価項目	割合	□成績評価に関するコメント			
出席状況					—	・医療的ケアⅡでは、試験合格者のみ、進むことができます。 ・喀痰吸引、経管栄養とも5回以上実施します。限られた時間での演習のため、放課後の時間を有効につかい回数を積みましょう。 ・実技試験に合格すると、基本研修修了認定が受けられます。 □学生へのメッセージ ・医療的ケアⅠ同様、Ⅱでも出席を前提とします。評価項目には入れませんが欠席した場合は補習になるためご注意ください。 ・医療的ケアⅡは演習・実技試験になります。操作を間違えると命に関わるため、緊張感をもち取り組んでください。演習の際は、身だしなみ等を整えてください。整っていない場合は、見学となることがあります。 ・演習準備、片付けも授業の一環です。積極的に参加しましょう。 ・授業後の練習も積極的に参加しましょう。			
試験等	提出物				—				
	レポート				—				
	随時試験				—				
	定期試験（実技試験）				100				
	平常の授業状況（ ）				—				
その他（ ）				—					
合計					100%				
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア（中央法規）					適宜紹介します				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引	喀痰吸引の実施
2	〃	〃
3	〃	〃
4	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養	喀痰吸引の実施 経管栄養の実施
5	高齢者及び障害児・者の経管栄養	経管栄養の実施
6	〃	〃
7	実技試験	喀痰吸引/経管栄養実技試験
8	実技試験	〃
9	実技試験	〃
10	実技試験	〃

科目名	介護福祉ゼミⅡ			担当教員	岩上・熊谷・中嶋		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師、介護福祉士、介護支援専門員として介護施設・事業所等に5年以上勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護福祉での大切な視点を伝える。						
□位置付け 読む書く聞く発表する学習を通して文章力や読解力、表現力を身につけ、わかりやすい正しい記録ができる。また自己学習の仕方を身につける。									
□授業の目的 文章の書き方、文章の読み取り方、発表の機会を通して表現の仕方、聞き方を学ぶ。正しい記録（記述、報告）の仕方を学ぶ。自己学習の仕方を学ぶ。									
□授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> 文章力や読解力、表現力がつく。 わかりやすい正しい記録（記述、報告）ができるようになる。 自己学習の仕方を身につける。 									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				60	試験はありません。出席状況及び授業態度を重視します。提出物などの課題については提出期限を厳守してください。				
試験等	提出物			—	□学生へのメッセージ 自己学習の仕方を身につけ、自ら進んで勉強に取り組む姿勢を身につけます。授業は個人またはグループでの討論を中心におこないます。予習をしたうえで、積極的に授業に参加してください。				
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			—					
	平常の授業状況（授業態度）			40					
その他（ ）			—						
合計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
<ul style="list-style-type: none"> クエスチョン・バンク 介護福祉士 国家試験問題解説2022（メディックメディア） 介護福祉士国家試験 模擬問題集2022（中央法規） 					随時お知らせします。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	領域：人間と社会について①	国家試験に関連した講義・演習
2	領域：人間と社会について②	
3	領域：人間と社会について③	
4	領域：人間と社会について④	
5	領域：介護について①	
6	領域：介護について②	
7	領域：介護について③	
8	領域：介護について④	
9	領域：こころとからだのしくみについて①	
10	領域：こころとからだのしくみについて②	
11	領域：こころとからだのしくみについて③	
12	領域：こころとからだのしくみについて④	
13	領域：医療的ケアについて	
14	総合問題について	
15	総括	

科目名	介護福祉事務			担当教員	内藤 麻紀		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	医療事務員として、訪問診療も行うクリニックで3年間勤務。 実務経験をもとに分かりやすく丁寧に教授する。						
<input type="checkbox"/> 位置付け 介護福祉事務における基礎的知識を養い、介護に関連する制度の理解を深める。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 要介護状態になったとしても住み慣れた自宅や地域において生活が出来るよう、多彩な介護サービス主体が連携し合い利用者の生活を支えている。それと同時に介護福祉士は各介護サービスの中核に位置付けられ、介護保険の請求に関する知識を実践的な側面から理解を深めることを目的とする。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 介護保険制度についての基礎的知識を学ぶ。 2. 介護報酬請求（居宅サービス、施設サービス）に関する基礎的知識を学ぶ。 3. 「介護事務管理士 技能認定試験」の合格を目指す。									
成績評価の方法		評価項目	割合	成績評価に関するコメント					
出席状況			20	出席状況と授業への取り組み姿勢は評価の基本とします。					
試験等	提出物			<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ 介護福祉士として働くにあたり、介護サービスの種類と介護保険について総合的に学びます。試験に向けて、自主的に取り組みましょう。 ・持ち物：電卓、ラインマーカー					
	レポート								
	随時試験								
	定期試験		70						
	平常の授業状況（授業態度）		10						
合計			100%						
<input type="checkbox"/> テキスト 介護事務テキスト テキスト1・2・資料ブック 株式会社ソラスト				<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ					

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護保険制度の概要	介護保険制度のしくみ
2	介護サービス	介護サービスの種類と内容、提供機関
3	介護サービスのしくみ①	支給限度額のしくみ・給付管理業務
4	介護サービスのしくみ②	請求と支払いのしくみ・介護報酬の特徴と原則
5	居宅サービス①	居宅サービスの算定①
6	居宅サービス②	居宅サービスの算定②、居宅サービスのレセプトの書き方①
7	居宅サービス③	居宅サービスのレセプトの書き方②
8	支援サービス	支援サービスの算定とレセプトの書き方
9	福祉施設サービス①	福祉施設サービス算定とレセプトの書き方①
10	福祉施設サービス②	福祉施設サービス算定とレセプトの書き方②
11	保健施設サービス	保健施設サービスの算定とレセプトの書き方
12	療養施設サービス	療養施設サービスの算定とレセプトの書き方
13	地域密着型サービス	地域密着型サービスの算定・他制度との関係
14	利用者負担	主治医意見作成料・利用負担の徴収
15	定期試験	筆記試験